開会（8：56）

○村松幸昌分科会長 それでは、皆さん、おはようございます。

定刻前ですけれども、皆さんおそろいですので、始めさせていただきたいと思います。

なお本日は、鈴木浩己分科会員が欠席ということで連絡がありましたので、分科会員の皆様に御報告させていただきます。

ただいまから予算決算審査特別委員会総務文教分科会を開催いたします。

当分科会に付託されました議案は、認第12号「令和5年度焼津市一般会計歳入歳出決算認定について」の1件であります。

審査順序は、お手元に配付の審査順表のとおり、総務部、行政経営部、防災部、生きがい・交流部、教育部、学校福祉部の順で審査を行いたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○村松幸昌分科会長 御異議なしと認めます。よって、お手元の審査順表のとおり審査することにいたします。

なお、質疑の際には、決算書及び主要施策概要報告書のページ数をお伝えいただきますようお願いをいたします。

それでは、認第12号中、総務部所管部分を議題といたします。

質疑、意見のある分科会員は御発言をお願いいたします。

○原崎洋一分科会員 決算書の167ページの2款1項1目のところで、障害者を雇用しているというところがあるんですが、ここの部分で執行歩合が76.4%とちょっと少なくなっているんですけれども、これ5年を超える職員というのはどのぐらいいるのでしょうか。

○久保山晋一人事課長 障害者で5年を超えて、まだ5年以上雇用されている方の数ということでよろしかったでしょうか。

○原崎洋一分科会員 はい。

○久保山晋一人事課長 すいません。ちょっと年数まで今、手元にないのですが、雇用されている職員自体は、会計年度任用職員として雇用されるのは18名と、正規雇用で、すいません、ちょっと手元にないんですけれども、数名程度おります。

○原崎洋一分科会員 数名程度。

○村松幸昌分科会長 今の回答は数名程度でいいとするのか、また改めて数字を。

○原崎洋一分科会員 改めて聞きたいです。

○村松幸昌分科会長 それじゃ、人事課長、改めてお願いをいたします。

○久保山晋一人事課長 はい。

○村松幸昌分科会長 次。

○原崎洋一分科会員 それとの関連になるんですが、この76.4%、予算に対してちょっとこう、4分の3くらいになったという理由、説明をお願いします。

○久保山晋一人事課長 会計年度任用職員のところの給与費が4分の3くらいになっている原因ですけれども、障害者雇用に関するということが理由ではなくて、ここ、障害者

も含めた形での会計年度任用職員、多くは産休や育休、あとは病欠ですとか、あとは業務が一時的に集中したというところの中で会計年度の人事課予算で対応しているという部分になりますので、そういった案件が当初予定していたよりも少なく済んだというところの中で、執行率が下がっているというような状況です。

以上です。

○原崎洋一分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○原崎洋一分科会員 はい。

○村松幸昌分科会長 ほかに。

○村田正春分科会員 同じく167ページです。2款1項1目職員採用事務費のところですが、これも大分この執行歩合が55.7%と低いんですが、その理由、あと予定数の採用、あと求める人材の採用はできていたのでしょうか。よろしく願いいたします。

○久保山晋一人事課長 まず、執行率が低くなってしまった理由というものは、応募者数が減っている中で、当初予定していた数ほど応募者がなく、試験のための委託料が予定しているところよりは伸びなかったというのが一つの理由となっております。

予定していた数が採れたかという御質疑に対してなんですが、最終的には少し予定よりも少ない採用になってしまいましたが、区分、大卒ですとか、社会人ですとか、そういったものを、年度当初の、例えば大卒10人というところが10人採れているかということ、採れていない部分もあるんですけども、社会人ですとか、そういったトータルではおおむね8割とか9割程度、予定していた数が採れているというような、数は採れております。

ただ、退職者が予定よりも増えてしまっていて、当初の計画以上の数を採らなければならなくなってしまったというところではあります。

ですので、年度当初で計画を立てていた数は採れていたんですが、退職者が予定よりも多かったのだというような状況はあります。欠員が出てしまっているといいますか、退職者補充というところまで採れなかったというような。

○村田正春分科会員 退職者が多くなって、採用する人数が8割ぐらいということは、ちょっと職員の数が減っているということで解釈してよろしいですか。

○久保山晋一人事課長 すいません。説明がうまくできなくて申し訳ございません。予定数は確保されていて、職員の数に欠員が生じているということではありません。予定していたよりも退職者が多くて、それぞれの業務の中で増員要望もあるものですから、そこまで満たすことができなかったということで、御理解いただけたらと思います。

○村田正春分科会員 了解です。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○村田正春分科会員 はい。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○村田正春分科会員 169ページ、2款1項1目職員健康管理費、ストレスチェックを実施したとありますが、その結果の詳細と、あとハラスメント相談員に対する研修とはどのような研修でしょうか。

もう1点、81人に対してこころとからだの健康相談を実施したとありますが、その対

象者選択基準はどのようになっているのでしょうか、お願いします。

以上です。

○久保山晋一人事課長 ストレスチェックにつきましては、対象者は会計年度も含めまして職員全員に実施しております。結果としましては、全体の評価としましては、普通の状態であるという結果が出ております。

ただし、普通の状態というのが、5段階の中で真ん中の状態ということで、普通の状態という評価になっております。

この職場の全体の評価としましては、ソーシャルスキル、社会人としての必要な人付き合い、そういったものが注意、ちょっと苦手かなというような全体の傾向が出ているという状況です。

続きまして、ハラスメント研修につきましては、管理者、係長、課長の、管理監督者の内容、例えばパワーハラスメントはやってはいけませんよとか、こういうものに当たりますよというようなことの研修とともに、一般職員に向けて、ハラスメントというものはこういうものですよというようなことを認識してもらうことを実施しております。

あと、相談員も各フロアに配置するようにはしております、人事課の職員ですとか、職員組合が推薦して来てくださった職員がおります。そういった人たちにハラスメント相談員として、認定といいますか選任しまして、そうした人たちに対しての研修というものも実施しております。

最後に、こころとからだの相談の81名ですけれども、選任というよりは、こういった窓口がありますよということで、職員に案内しておりますので、自分から相談に乗ってほしいとか、所属長が、この子がちょっと最近問題を抱えているよと、心に限らず、ちょっとおかしいよということで所属長から御相談を受けて相談に乗るというようなことで実施しているものです。あとは休職者も定期的に面談を行っているというところで、81人ということになっております。

以上です。

○村松幸昌分科会長 特に、最後のこころとからだの相談はとても大事だと思います。よろしくお願いします。

○増井好典分科会員 補足です。関連ですいません。先ほどのハラスメントの件なんですけれども、ハラスメントって今たくさん種類があると思うんです。そういった中で、どんな種類のハラスメントをこの予算の中で研修を行ったのか、分かる範囲で結構です。

○久保山晋一人事課長 ハラスメントにつきましては、全般的な内容となっております。ただし、今一番騒がれておりますカスタマーハラスメントの部分につきましては、なかなか、最近、声も大きくなっているところでもありますので、そういったものがあるよというぐらいの内容なのかなというふうに感じておりますが、基本的には全般的にハラスメントと大体なるようなものは案内させていただいています。

ハラスメントも非常に多くありまして、臭いとかそういうのもあったりとかするんですけれども、おおむねパワーハラスメント、それからセクシャルハラスメントが主体的な内容かなということで。

以上です。

○増井好典分科会員 確かに、ハラスメントの種類はこれからまだ増えると思うんです。

そういった中で、予算の中で研究をしてほしいのは、それぞれ民間の企業でハラスメントの研修会、勉強会というものは頻繁に今行われているというふうに聞いています。何が一番主体で行われているのか、あるいはどういった研修が民間では行われているのかというものを情報をキャッチしていただいて、そういうものを参考に、主体に研修内容を組んでもらうというのを予算の中でやっていただくのが効果的かなと思いますので、ちょっとそれだけお願いという形で、すいません。

以上です。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○原崎洋一分科会員 今のところのすぐ下ですが、安全運転管理費のところですけども、説明のところには、交通事故とか違反による処分等の状況は、訓告7件、嚴重注意34件、注意24件、過失なしが12件、合計77件であったというふうに記載されておりますけども、この辺の詳細を教えてください。

○久保山晋一人事課長 まず、この処分につきましては、規定に基づきまして、規定の中に、事故の内容によりまして決定するというようになっておりますので、その内容によって決定しているところであります。

あと、内容につきましては、事故に関しましては、接触事故や物損事故、そういったものが多くなっております。人身に関わるようなものにつきましては、訓告や嚴重注意というような処分をしているところです。

あと、違反につきましては、通行禁止帯の違反が多く見られているというような状況です。こちらについては嚴重注意というような処分をさせていただいているところです。

以上です。

○原崎洋一分科会員 そういった交通ルールを守れないというのはどういうふうに認識しているのでしょうか。指導が足りなかったんだとか、運転免許を持っているって言っていたけど、実際には持っていなかったんだとか、何かそういうケースもあるのでしょうか。

○久保山晋一人事課長 スピード違反ですとか、そういったものにつきましては、ちょっとうっかりしていたということが多くの原因かというふうに思っております。通行禁止帯の違反に関しては、時間帯で通行禁止ですよという場所ですとか、なかなかふだん通っていないような、外出しているときに標識を見落としてしまったとか、そういったことが原因というふうに聞いております。

ですので、交通安全の、事故を起こさないようにということで、年末に毎年警察のOBの方ですとか、焼津警察署の交通課の職員にも来ていただいたりとかして、毎年、交通講話という形で一種の向上を図ってはおります。

以上です。

○増井好典分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○鈴木まゆみ分科会員 169ページ、2款1項2目の文書管理費ですけども、223万4,283円、この内訳は各課から要望のあったファイリング用品及び文書保存箱と高柳清掃工場内に書庫を借り上げたと書いてあるんですけども、一括、1年間分の借上料なのか、月の借上料なのか、あとシステム料ということでこの金額なんですか。

○青木雄一郎総務課長 高柳の清掃工場につきましては、長期継続契約を結んでいまして、こちらは年間の金額になりますけれども、58万9,750円、こちらのほうを支払っております。あとは何でしたっけ。

○鈴木まゆみ分科会員 契約料も入っている？

○青木雄一郎総務課長 そうです。

以上であります。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○鈴木まゆみ分科会員 はい。いいです。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○村田正春分科会員 175ページ、2款1項9目防犯灯費、ほとんど防犯灯になっていると思うんですが、この防犯灯でのLEDの比率はどれぐらいになっているのか。また、以前の水銀灯に比べて電気料の差はどれほどLEDは差があるのか、その2つをお願いします。

○青木雄一郎総務課長 今のところ、灯数としまして、LED、ここに補助をさせていただいているんですけども、LEDのところは1万1,700灯ほど、水銀灯のほうは17灯、単価としましては、予算計上上になりますけれども、LEDが80円、水銀灯が165円ということで積算させていただいております。

以上になります。

○村田正春分科会員 了解です。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○村田正春分科会員 はい。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○原崎洋一分科会員 171ページのところで、2款1項5目、公有財産の土地の草刈りが、普通財産の維持管理のところで草刈りとか樹木管理とかというふうなことが書いてあるんですが、これは執行の具合を見ると72.8%とちょっと少なくなっているんですが、公有財産の土地の草刈りで、できなかった部分があったのではないかと思うんですけども、この辺の少なかった理由と、もし草刈りとかができない部分があったのであったら、なぜできなかったのか、その説明をお願いします。

○高澤 清公有財産課長 まず、草刈りのところについては、全て草刈りをしておりまして、していないというところはございません。管理されていないという場所はございません。

それと、執行率がちょっと少ないよというお話ですけれども、それにつきましては、公売で不動産鑑定をするための予算もそこに含まれておりますので、それが昨年度は案件がなかったということで、その部分が執行率が少なくなっているという理由でございます。

○原崎洋一分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 よろしいですか。

ほかにありますか。

○鈴木まゆみ分科会員 184、185ページの明るい選挙推進費、2款4項2目。決算額は13万6,755円が明るい選挙推進費なんですけれども、新有権者1,052人に啓発はがきを送付

したということなんですけれども、この新有権者の投票率というものが分かりましたら教えてください。

○青木雄一郎総務課長 すいません。そこまで把握できません。

○鈴木まゆみ分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○杉田源太郎副分科会長 179ページ、2款1項16目新庁舎建設事業費なんですけれども、1,120万9,330円。この中で新庁舎のグランドオープン記念式典や近隣住宅への事後補償算定業務等いろいろ書いてあるんですけれども、このグランドオープンで記念式典を行っても1,120万もかからないんじゃないかなと思うんだけど、この内訳をちょっとお願いいたします。

○高澤 清公有財産課長 グランドオープンの記念式典に710万6,330円、周辺宅への事後補償算定業務、それも合わせてですね、すいません。合わせて710万円。

○杉田源太郎副分科会長 ああ、そうなの。

○高澤 清公有財産課長 ええ。すいません。

○杉田源太郎副分科会長 びっくりしたよ。

○高澤 清公有財産課長 それと、本庁舎の監視カメラの増設に410万3,000円でございます。

○杉田源太郎副分科会長 今、合わせて710万円だったんですけど、合わせてじゃなくて、それを別々に。

○村松幸昌分科会長 もう一遍、説明お願いします。

○高澤 清公有財産課長 グランドオープンですが、485万7,600円、事業補償の関係が71万5,000円、あと、土地の登記の関係が153万3,730円でございます。

○杉田源太郎副分科会長 何かすごく記念式典にこれだけお金がかかったんだというのが、ちょっとびっくりだったんですけれども、補償のほうで71万5,000円ですね、この補償というのは具体的に何の補償なんですか。

○高澤 清公有財産課長 工事前に、まず近隣、周辺のお宅の調査業務を行います。その後、変わったところとか、工事によって生じた損害が一部ありますので、その算定業務の費用でございます。

○杉田源太郎副分科会長 工事のときに何か壊したところがあって、その算定業務って言いましたよね。その算定だけで、実際に補償した金額ではないということですか。

○高澤 清公有財産課長 実際の補償については、今年度行っているということでございます。

○杉田源太郎副分科会長 そういうことか。

もう1点いいですか。同じページの2款1項19目で、職員退職手当基金積立金、この説明の中で、会計年度職員も含むというような説明があったと思います。会計年度職員と正規職員の退職の人数ですか、そういうものを教えてください。

○久保山晋一人事課長 こちらの積立てに関しては、今後の発生するであろう退職金に向けての積立てということになります。人数につきましては、こちらの予算を使うということではないんですけども、令和5年度末の退職者の数ということですよ。

○杉田源太郎副分科会長 基金だから、このぐらいあるだろうと見込んでいる人数、それ

がどうなのかというのは。

○久保山晋一人事課長 もちろん、こちらの金額を算定するためには想定の人数はあるんですけども、すいません、ちょっと今、手元にないものですから、一旦。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっと聞きたかったのは、会計年度なもので、1年ごと、今までも質疑したことがあるんですけども、年度末に1対1でみんなに、続けてやってももらえるのもらえないとか、あるいはその何か条件が悪くて、ここで終わりですよというのか分かんないですけど、そういうことがあると思うんですけど、会計年度職員で今までも何人か、先ほどそちらで言っていただいたことですが、今までに会計年度職員で退職をされて、それで退職金を払ったその人数、金額というのはどのぐらいあるんでしょうか。例えばその前の年度でも構いませんけど。

○久保山晋一人事課長 申し訳ありません。ちょっと今、手元にないものですから、改めて提示いたします。

○杉田源太郎副分科会長 その資料を頂くときに、総務部の関係の中の会計年度職員ではなくて全体ですか。

○久保山晋一人事課長 全体。

○杉田源太郎副分科会長 全体ですか。そうか。じゃ、全体だと、どの部署で何人というのは、そういうのは分かるんですかね。

○久保山晋一人事課長 退職時の部署は把握できておりますので、今そういった資料はまとめておりませんが、作成して提出することは可能です。

○杉田源太郎副分科会長 了解です。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

ほかにありますか。

○久保山晋一人事課長 先ほど原崎分科会員から御質疑がありました障害者の数について、すいません、一部ちょっと訂正させてください。令和5年6月1日現在で35人となります。こちらは会計年度、正規合わせてです。先ほど18人ということで、会計年度の数をお報告させていただきましたが、これの18人は人事課で予算を持っている会計年度の数ですので、実際にはもう少しいるというところですので、正規の数を御報告させていただく中で、またその辺を訂正させていただきたいというふうに思います。改めて、そこで5年以上の会計年度の数も御報告させてください。

以上です。

○原崎洋一分科会員 お願いします。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。いいですかね。

1つ、先ほど杉田分科会員が話をしました、いわゆる退職金の、179ページ、元金積立金3億2,887万2,000円、それと、392ページの基金というところの職員退職手当基金の決算年度中増減高、この差額というのが、これはイコールになるわけではないんですけども、どのような形でこの差が出たのかちょっと分かれば説明ください。本当の金額の支払った分の差額の合計だけが出てきたのが差額になるのかどうなのか、そこだけ分かれば。大体、おおよそは検討つくんですけども、その差だなというのが分かればいいの。イコールになるわけがないの。

○久保山晋一人事課長 179ページの積立金の3億2,887万2,000円は純粋な積立金になり

ます。その下の、利子のついているというところの中で、合計で3億2,937万275円ということになりますので、そこは差額は生じていないということです。利息分という形になります。

○村松幸昌分科会長 ありがとう。それで、392ページの年度末現在高5億2,685万7,705円、これを翌令和6年度に退職すると予想される分がここで払えるという考え方で積み出しているのよね。

○久保山晋一人事課長 毎年、その年度の退職する職員の見込額というものも基本的には予算要求させていただいて、不足する金額、おおむね上限を4億5,000万円くらいに設定をしておりますので、そこで足りないような金額が出てくればこちらの基金を使うというようなことで考えております。それ以下の額であれば、通常に4億5,000万円ぐらいをめどに、毎年予算計上させていただいて、予算措置をさせていただいて、そこでもし余りが出れば積立てのほうに回すというようなことで、今、設計をしているところです。以上です。

○村松幸昌分科会長 分かりました。いいです。

じゃ、元に戻ります。

ほかにありますか。よろしいですか。いいですね。締めます。

ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

以上で、予算決算審査特別委員会総務文教分科会の総務部所管部分の審査を終了いたします。

当局の皆さん、御苦労さまでした。

休憩（9：38～9：42）

○村松幸昌分科会長 それでは、1名まだお見えになっていませんけども、ほかの皆さんはおそろいですので、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、認第12号中、行政経営部所管分を議題といたします。

その前に、部長にお願いをというかお話をさせてください。今般、ソリューションを作っていただいて、我々、各議員が見させてもらいました。それとここの決算書の作り込みの中に、主要施策の概要報告書、ここが盛り込まれています。ここも我々議員が見たんですけども、なかなかそこまで目を通すわけがいかない議員もおりまして、ここに主要施策の概要が書いてあるよという話を私のほうからうちの会派に説明させてもらいました。そこで、各議員が読ませていただいてやったんですけども、大幅な変更があるものですから、事前にちょっとフォローアップしてもらおうとありがたいなという意見がありました。

それと、ここの主要施策の概要の作り立てが、款項目節に沿った形ではないものですから、その辺も検討していただきたいなという声がありましたので、お伝えをさせていただきます。

（「ページも書いてない」と呼ぶ者あり）

○村松幸昌分科会長 分かりました。その辺も。

（「何ですか」と呼ぶ者あり）

(「ページが書いてない」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌分科会長 分かりやすくしてもらいたいです。

○石原隆弘行政経営部長 すいません。いろいろ使いづらい点もあったかと思って御不便をおかけして申し訳ございません。確かに事前の説明、ちょっと十分な時間が取れずに短い説明になってしまったものですから、またどこかでしっかり説明させていただくようにしていきたいと思います。

また、いろいろできる限り見直しもしていきたいと思っていますので、そうはいいまでも、ちょっとシステムの関係でどこまでできるかということもございますけれども、またぜひ使い勝手をよくするための御意見を頂戴できればと思いますので、よろしくお願い致します。

○村松幸昌分科会長 以前に比べればきちんと進歩していますので、これからつくり上げていくという形で、一步一步、目指す方向に進んでいければと思いますので、お願い申し上げます。

それでは、質疑、意見のある分科会員は御発言をお願いします。

○原崎洋一分科会員 決算書の169ページ、2款1項2目の備考欄の一番下、シティセールス推進事業費のところなんですけれども、ここで、ホームページのところには、アクセシビリティに配慮したホームページにリニューアルしたと。これは誰がそういうアクセシビリティをどのように確認したのか、それを教えてください。

それと、この決算額の内訳を詳しく教えてもらいたいです。

○鈴木文彦シティセールス課長 まず1点目ですけれども、アクセシビリティにつきましては、ホームページを構築していく中で総務省から示されておりまして、使いやすさ、見やすさということで示されておりまして、それに基づきまして設計をさせていただきます。

また、検査機関、民間ですけれども、ございますので、そちらのほうで検査をしていただきまして、ダブルAということで非常に高い評価をいただいております。

あと内訳ですけれども、決算の内訳につきましては、4,223万3,535円、合計ですので、ホームページのリニューアル業務に2,968万6,800円、あと、総合案内A I チャットボットサービスにつきまして994万9,500円、あと、まちかどリポーターの研修育成事業に220万円、シティープロモーションの動画作成に28万8,200円、あと職員研修を実施しておりまして、講師の謝礼に4万4,000円、あと旅費、消耗品等となっております。

以上でございます。

○原崎洋一分科会員 ありがとうございます。今、ホームページのアクセシビリティは総務省と民間で確認したと言っていますが、私、意見として聞いてもらいたいですけれども、変わったばかりなので余計使いにくいのかもかもしれませんが、前のほうが使いやすかったかなという部分も幾つかあるように思います。なので、もしできたら、市民の意見とか、市の職員さんの意見とか、私たちの意見も、一般の人たちの意見も何かしらの方法でアンケートを取ったりとか、いろんな方法でちょっと確認作業をしてもらって、使いにくい部分はそれに応じた形で、また変更していってもらえるとありがたいなと思いますので、お願いします。

○村松幸昌分科会長 原崎分科会員、いいですか。

○原崎洋一分科会員 いいです。

○村松幸昌分科会長 今、幾つか使いにくいところの一つでも言って。

○原崎洋一分科会員 一番使いにくいのは、仕事柄、ユーチューブ配信をしていますけども、議員のユーチューブ配信を探すのに最初はちょっと大変な思いをしました。でも、検索の仕方によってすぐに出るという方法が分かりましたので問題はないんですが、でも、一般の人も多分私みたいにユーチューブ配信を映像で確認したいという場合には、同じような思いをしている人が複数人いるようです。まだ1人、2人しかそういう人はいませんが、そういった形で思いがけない部分というか、そういうところもあるかもしれませんので、アンケートを取ってもらえると一番ありがたいと思います。

以上です。

(「関連でいい」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌分科会長 今の、求めなくていい？ 答え要りますか。

○原崎洋一分科会員 返事を。

○鈴木文彦シティセールス課長 ホームページを今年の2月13日に改修しまして、1か月後ぐらいにLINEのキャンペーンに合わせまして、使い勝手はどうかということでアンケートを取らせていただいております。98%弱の方、97%以上の方が、「普通」、「使いやすい」、「非常に使いやすい」というところで御回答いただきまして、今、原崎分科会員からもお話しございましたけれども、最初導入するときには、なかなか使い勝手が分からないという声もいただいております。今回、分野ごとに分けた形で構成をしておりますけども、今後、また機会がございましたら、LINEのキャンペーン等々に合わせまして、またアンケート等のほうを考えております。

以上です。

○村松幸昌分科会長 よろしいですか。

○原崎洋一分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 じゃ、関連。

○杉田源太郎副分科会長 今の、金額がちょっとよく分からないけれども、チャットボットのところで、もう一回教えてもらいたいのと、説明のところに、チャットボット、LINE、令和5年度において新型コロナがどうのこうのってずっと書いてあるんだけど、これはコストの説明じゃないですよ。ここのがコストについての説明がなかったように思うんですけど、それを教えてください。

○鈴木文彦シティセールス課長 まず、AIチャットボットにつきましては、24時間対応ということで、市民の方が質問してそれにチャットボットが答えるということでありまして、1,400弱ぐらいの項目を御用意してございまして、そちらで対応してございます。先ほど申し上げたとおり、経費的には1,000万円ほどかかってございますけれども、この数字が正しいかどうかということとはちょっと別にしまして、1件当たり電話対応が5分と換算しまして、大体7万2,000件ほど問合せをいただきまして回答させていただいております。

○杉田源太郎副分科会長 あれ、さっき1,400って言わなかった？

○鈴木文彦シティセールス課長 はい？

○杉田源太郎副分科会長 さっき1,400って言わなかった？

○鈴木文彦シティセールス課長 1,400件というのは項目です。質問項目。実際、発話数、回答しました数が7万1,587件というふうに回答させていただいております。ちょっと変な計算ですけども、1件当たり5分換算で計算しますと、人件費の平均が2,300円ぐらいと考えますと、大体1,300万円ほどの人件費に對しまして、このAIチャットボットが対応しているというふうに計算上はなっております。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 7万1,000件ぐらいあって、その人たちは5分ぐらいやって、それで人件費がこのぐらい浮くよというのは今のお話で分かったんですけど、これがかかったお金というものは幾らなのか、それは何のお金なんですか。

○鈴木文彦シティセールス課長 先ほど申し上げましたとおり、AIチャットボットサービスというものは990万円ほどの額でございます。こちらが経費となっておりますけれども、よろしいですか。

○杉田源太郎副分科会長 その990万円が、何に使われる……。

(「経費の中身」と呼ぶ者あり)

○杉田源太郎副分科会長 経費の中身。

○鈴木文彦シティセールス課長 システムの運営費。

○杉田源太郎副分科会長 システムの運営費、そんなにかかるの。

○鈴木文彦シティセールス課長 はい。

○杉田源太郎副分科会長 ああ、そうなの。

○鈴木文彦シティセールス課長 ここが委託料としてかかっております。あとLINEの配信につきましてもこの990万円の中で実施を、委託をさせていただいております。

○杉田源太郎副分科会長 全体のことになるんですけど、昨年度の決算に対して4倍ぐらいになっているんですかね。446.4%ってあったと思うんですけども、この理由は何ですか。

○鈴木文彦シティセールス課長 先ほど事業費の内訳を申し上げましたけれども、昨年度、令和5年度につきましては、ホームページのリニューアルが3,000万円ほどございまして、それで決算額が非常に伸びてございます。

以上でございます。

(「ホームページのリニューアルってそんなにかかるの」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

(「今の関連はいいです」と呼ぶ者あり)

○増井好典分科会員 先ほどの関連で申し訳ないです。

AIがどんどん進んで入りますと、人が携わる部分がどんどん減ってくる。当然それはこういった費用をかけることによって効果としてあると思うんですけども、逆に、これもできるようね、あれもできるようねって業務を増やす可能性というのも、これからどんどん進んでいくとあると思うんですね。

この今回の予算の中で、そういったものを推し進めた結果、当然情報として早く発信をしたい、正確なものを発信したいがゆえに、ちょっとこう方向性が間違ったものが入ってしまったとか、そういった可能性がやっぱり人間のやることなのでできてしまうと思うんですけども、そういったチェック機能もこの予算の中で補っているという解釈

でよろしいのでしょうか。

どうしてもSNSとか何かの発信だと、ばばばっとやって、ぼんと出したくなるんですよ、人間ってね。その辺のチェック機能をこの予算の中にもちゃんと織り込んでいるという考え方でよろしいんですかね。

○鈴木文彦シティセールス課長 ホームページにつきましては、当然、担当課のほうから上がってきまして、所属長まで確認をしていただきまして、シティセールス課公開前に2人担当と主担当といますか、最後の職員ということで二重チェックをさせておりまして、担当課のチェック、また、シティセールス課のチェックということで発信をさせていただいています。うちの担当のほうで非常に厳しく確認してございますので、間違いはないということで承知をしてございます。

あと、LINE等々につきましても、うちのほうは担当何名か、当然私も確認しますが、確認してございまして、人的なものになりますけれども、人的なもので確認ということで対応させていただいております。

以上でございます。

○増井好典分科会員 了解しました。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○原崎洋一分科会員 同じく169ページのホームページ運営事業費ですけれども、74.3%に少なくなっているということで、これはホームページがリニューアルしたことで経費が安くなったということもあるのでしょうか。お願いします。

○鈴木文彦シティセールス課長 原崎分科会員おっしゃるとおりでございまして、2月から新しいホームページの運用になってございますので、そこで新しいもの、3,000万円ほどの予算のほうに切り替わりまして、保守料が減額となっております。

以上でございます。

○原崎洋一分科会員 今後もこのくらいの運営費でやっていけそうな数字なのでしょうか。例えば具体的には来年度とかいかがでしょうか。来年度って区切っちゃ駄目か。

○村松幸昌分科会長 決算だからね。決算内の話をしているの。

○原崎洋一分科会員 決算内か。駄目なら駄目で。

○鈴木文彦シティセールス課長 御参考にでしたら。

○原崎洋一分科会員 はい。

○鈴木文彦シティセールス課長 システムが変わりまして、ちょっと金融機関上がってございますけれども、約460万円ほどで年間の補修を令和6年度行ってございます。サーバーのレンタル代も含んでございます。

以上でございます。

○原崎洋一分科会員 リニューアルして、経費が下がったということで本当にいいことだと思いますので、今後ともそういった方向で経費がかからないような方向でやってもらえればいいと思います。

次の質疑なんですけど、その上の広報やいづ発行費のところですが、印刷と発行の内訳を教えてください。それと83.6%で、15%ぐらい少なくなっているということの理由をお願いします。

○鈴木文彦シティセールス課長 令和5年度につきましては、4万2,000部印刷してござ

いまして、折り込みが3万5,000円ほど、あと郵送が4,400円、一般質問がございましたけれども、各施設、地域交流センター等々に配達するものは2,500件から3,000件と内訳としてはなっております。

印刷、あと、決算額的な質疑でよろしいですか。

○原崎洋一分科会員 そうですね。はい。

○鈴木文彦シティセールス課長 決算額としましては、主なものとしまして、印刷製本費が1,121万3,202円、あと、折り込みとかポストインにかかる経費につきまして、委託料でございますけれども、1,222万1,087円、いろいろな機器とかソフトを使用しております、そちらのリース代が163万9,220円。主なものは以上となっております。

以上でございます。

○原崎洋一分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○鈴木まゆみ分科会員 同じく169ページ、2款1項2目広報広聴事業費、決算額が40万8,349円のところでございますけれども、意見箱の運営というのがあります。おおよそどのぐらいの意見が集まったのか、ざっくり分かれば教えてください。

○鈴木文彦シティセールス課長 意見箱ですけれども、令和5年度の実績につきましては、合計で338件となっております。あと各所に意見箱を設置ございまして、そちら文書で頂いたものが67件、メールで頂いたものが271件ということで、合計で338件来てございます。

以上でございます。

○鈴木まゆみ分科会員 ありがとうございます。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○鈴木まゆみ分科会員 では、その予算額、決算額で76.6%の執行率なんですけれども、その要因は何でしょうか。

○鈴木文彦シティセールス課長 40万8,000円ですけれども、主なものは各協会、県の広報協会、日本広報協会の負担金が主なものでございますけれども、消耗品に若干費用がかかっているということで執行率が若干下がっております。

以上でございます。

○鈴木まゆみ分科会員 日本コウキョウ？

○鈴木文彦シティセールス課長 日本広報協会です。

○鈴木まゆみ分科会員 広報協会。

○鈴木文彦シティセールス課長 あと県の広報協会の負担金となっております。

○鈴木まゆみ分科会員 その情報発信の経費というか。

○村松幸昌分科会長 負担金とかそういうことでしょうか。会があるので。それについていいですか。

○鈴木文彦シティセールス課長 事務費的なものはこちらの広報広聴事業で計上させていただいております。

○鈴木まゆみ分科会員 ありがとうございます。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○鈴木まゆみ分科会員 はい。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

よろしいですか。

○杉田源太郎副分科会長 173ページ、2款1項6目です。総合計画推進事業費1,307万2,480円、この中で第6次焼津市総合計画2期目の基本計画を着実に進捗するためと、いろいろ説明をいただきました。

この中で、その費用の内訳をまず最初に教えていただきたいのと、コストの中心になっているのは焼津未来デザイン策定支援業務委託なのかなと思うんですけども、その委託がどういう内容なのか、まず先に内訳お願いいたします。

○藤野 大政策企画課長 お答えします。総合計画推進事業費1,307万2,480円のまず内訳についてでございます。主なものは、後ほど御説明いたしますけれども、委託料となりまして、1,243万7,700円。この中の中心のものが、今、副分科会長がおっしゃったような、焼津未来デザインの策定に関わるものとなってございます。そのほか、謝礼に21万円、これは今庁内で進めているプロジェクトチームの専門講師を派遣していただいている関係がありますので、そういった謝礼になります。それから旅費、これは職員旅費になりますけれども34万8,670円、それから消耗品費3,940円、それから使用料、これは高速代などになりますけど1万7,500円、最後に借上料ですけれども5万4,670円になります。最初は内訳ということでよろしいですか。

○杉田源太郎副分科会長 はい。ありがとうございます。次期総合計画の策定は2025年になると思うんですけども、今、その進捗状況ですか、それについて、2025年に対して始めていると思うんですけども、それについてのこの中でやられていると思うんですけど、これの進捗状況というのはどうなっているんですか。

○藤野 大政策企画課長 次期の総合計画の策定に向けて、現在、今後どういうふうな策定をしていこうかという基本的な方針を今庁内で検討しているところであります。その方針がまたまとまったところで、議員の皆さんに、事前にこんな方法で次の総合計画をつくっていききたいですよということの御説明の機会をぜひいただきたいというふうに考えております。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 今の確認になると思うんですけども、焼津未来デザインというのは、次期の総合計画の策定と同じ意義だという、そういうことでいいですか。

○藤野 大政策企画課長 今回の一般質問でも市長のほうから御答弁させていただいた内容とちょっと被りますけど、まず、この焼津未来デザインですけど、これまでのダイヤモンド構想、これを発展的に再構築をしたものとして位置づけをしております。

このデザインについては、今後策定が予定されている総合計画、それから都市計画マスタープランなどの諸計画を策定する上で、まちづくりの基本的な考えというものを整理しようというところで定めるものでございます。こちらについては、おおむね20年先を見据えて中長期のビジョンというふうな位置づけで考えてございます。

そういったところで今後は総合計画をする上での基本的なものとして整理しているということになりますので、今、分科会員がおっしゃってくれたように、そのデザインと、それから今、これから策定方針をまとめていきます総合計画、これと並行して作業のほうが進んでいくというふうに御理解いただければなと思っております。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 今、大体何となくイメージできたんですけど、地域別デザインというのは、今まで都市政策のほうでやられたものではないかなというふうに思ったんです。総合計画の中で地域計画というものが策定されていくということだったんですけど、それが一緒になるという、そんなイメージですかね。

○藤野 大政策企画課長 今の策定を進めている未来デザインの中では、市の全体のグラウンドデザインと、今おっしゃってくれた地域別の未来デザインということで、大きく言えば2つ、策定を進めているところでございます。

この地域別のところを、総合計画と同じように全体のもの地域別のものができるかというそういうことは考えておりません。なので、この地域別というものはどちらかというと、今後、都市計画のマスタープランが策定を進めていく予定になっておりますので、またこちらのほうで地域別の都市計画のマスタープランの構想が策定されるというふうに認識しておりますので、こちらのほうにぜひ活かしていきたいというふうに考えているものでございます。

以上でございます。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○原崎洋一分科会員 関連して。焼津未来デザインですけども、これ業務委託でやっているわけですよね。この業務委託費もこの決算額の中に全て入っているのでしょうか。

○藤野 大政策企画課長 先ほど杉田副分科会長にも御答弁させていただきましたところとかぶるところがございますが、先ほど全体の事業費のうち、1,243万700円、これがデザインの策定の業務委託に関わるものでございます。

以上でございます。

○原崎洋一分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

ほかにありますか。

○杉田源太郎副分科会長 同じ173ページの2款1項6目若者とのまちの賑わい創出事業。ここで522万9,551円あります。まず、この費用の内訳について教えてください。

○藤野 大政策企画課長 この若者とのまちの賑わい創出事業の下の中事業になりますけれども、静岡福祉大学連携事業費ということになります。

この内訳ですが、全体の事業費522万9,551円のうち、主なものは、駅前通りに福祉大学のサテライトキャンパスを運営させていただいているんですが、その経費に180万円、それから、福祉大学との連携による地域の課題解決を連携してやっていこうといった取組をしております、そちらに係る経費に対して福祉大学のほうに補助金を出しております。この補助金が322万3,000円、そのほか消耗品費が1万4,066円、それから、電気料なんですけれども、電気料がすいません、先ほどの福祉大学のキャンパスのほうにかかる電気料になりまして、これが11万3,550円、あわせて水道料もございまして、それが2万4,273円。すいません、合算してお答えできればよかったですけれども、内訳はそういうことになります。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 今、地域で福祉大と連携して、地域のいろんな課題をというこ

となんですけど、具体的にはどんな内容ですか。

- 藤野 大政策企画課長 福祉大学でいろいろな取組をしていただいております、主なものは、放課後子ども教室、わんぱく教室という、もしかしたら聞いたことがあるかもしれませんが、そういった教室を開いていただいたりとか、それから、駅のキャンパスのほうでいろいろ文化講座なども開催をしていただいたりとか、いろんな市民向けの講座を各種取り組んでいただいているという、そんなような取組になります。

以上でございます。

- 杉田源太郎副分科会長 それだけ市のほうからこうやって補助を出しているいろいろやっってもらっている。幾つかちょっと関係がやっているところを見たことはあるんですけど、市としてこの事業というか、彼らがやっていることに対してどのような評価をされていますか。

- 藤野 大政策企画課長 静岡福祉大学の強みというのは、やっぱり福祉、高齢者、それから、障害者、児童、こういったところが非常に強みのある大学だというふうに認識しておりますので、そういったことに関しては今の少子高齢化という社会の中で、いろんな形で市民の方に講座を開いていただいているということでは、大変評価をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

- 杉田源太郎副分科会長 今、福祉大がメインというか、この補助しているのは福祉大だけですよね。そのほかに何か支援しているの団体だとか、ほかに学校があるのか分からないんですけども、そういうものがあったら教えてください。

- 藤野 大政策企画課長 まず、この福祉大学との連携事業については、財源は5市2町の連携事業の枠組みの中で市内の福祉大学との連携事業にさせていただいているという流れがございます。

それ以外の大学との連携になりますが、県で大学コンソーシアムといった団体がありまして、そこに焼津市のほうも加盟させていただいております。ここには県内の例えば静岡大学さんや、それから静岡産業大学さんなどのいろんな県内の大学、それから県内の自治体、民間企業、こういったところと色々な連携をしていきたいと思いますというところで、これまでの中では静岡大学さんと、過去には静岡文化芸術大学さんと連携をして、浜通りの活性化だったりとか、花沢地区の活性化、こういったところで連携しながら取り組んでいる事例がございます。

以上でございます。

- 杉田源太郎副分科会長 確認ですけど、今ほかの大学の名前が幾つか出てきましたけど、それは5市2町でやっていることなので、その今、新たに福祉大学以外に出た名前のところは、焼津市が補助しているということではないということだと思いますよね。

- 藤野 大政策企画課長 すいません。説明が申し訳なかったです。

あくまでも、福祉大学の先ほどの補助金を出している事業は5市2町の財源を活用して補助金を出しております。先ほどのほかの大学とのつながりは、県のほうに取り組んでいるふじのくに地域・大学コンソーシアムというものに焼津市が参加して、その中で先ほど言った静岡大学さんとか文化芸術大学さんと連携して、花沢だったりとか浜通りの課題解決というところに取り組んでおります。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっと私、サテライトキャンパスというものが具体的にちょっとよく分からないんですけども、サテライトキャンパスというのは、具体的にどんなことをやっているんですか。

○藤野 大政策企画課長 先ほどの福祉大学との連携事業でいろんな各種講座とかという話をさせていただいたんですけども、キャンパスの建物を使って、いろんな各種講座を開いていただいているという状況です。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 福祉大学でいろいろな講座を開いているということなんですね。それは大体どのぐらいの量、どんな、今、内容はちょっと項目に分けられるのかどうか分かんないんですけど、どのぐらいの参加をされているんですか。

○藤野 大政策企画課長 その都度の講座の参加者数はちょっと手元に資料がないんですけど、実際にキャンパスで行われた稼働日数についてはありますので、お答えさせていただきます。昨年度の実績、ちょっとこのところコロナの影響もあつたりとかして、なかなか動いていないところもあるんですけど、51日、そこを利用して各種講座を開いているという状況でございます。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 講座の内容って。

○藤野 大政策企画課長 講座の内容ですか。

○杉田源太郎副分科会長 どのぐらいの種類がありますか。

○藤野 大政策企画課長 これ全部ちょっとお答えできないかもしれないんですけど、例えば駅キャンの文化講座、何かお茶会をやったりとか、介護の総合演習を行ったりとか、焼津市のイベントスタンプラリー、それから、先ほどもちょっと御紹介しましたけれども、駅キャンで文化講座ということで、ハワイの民謡文化と伝承、それから子ども教室もそこで行っておりまして、楽しいミニロボ体験、こういったものをあそこで開いていただいていると、そんな取組でございます。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 了解です。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○杉田源太郎副分科会長 その件はいいです。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○杉田源太郎副分科会長 同じページ、173ページですけど、2款1項6目でデジタル変革推進事業というのがあります。この中で自分が一番苦手なところだけど、デジタルライフサポート事業、これはどういうことなのかちょっとよく分かんないんですが。

○藤原則文DX推進課長 杉田副分科会長にお答えさせていただきます。

このデジタルLifeサポート事業でございますけれども、これは昨年度、消費の下支えとマイナンバーカードの利活用推進のために、マイナンバーカードを用いて本人確認、電子申請をしていただいた市民の方に3,000円のキャッシュレスポイントを付与するという事業をやらせていただいたものでございます。

○杉田源太郎副分科会長 1人3万円だった。

○藤原則文DX推進課長 お一人様3,000円。

○杉田源太郎副分科会長 決算の額として6,000万円ですか、あるんですけど、これの内訳というのはどんなふうになっていますか。

○藤原則文DX推進課長 お答えさせていただきます。

この6,000万余円のうち、ほとんどがキャッシュレスポイントの原資が主でございます。今回、合計で1万4,713人の方に3,000円分のポイントを付与させていただきましたので、まずその3,000円分の原資と、あとその手数料等で、原資と手数料合わせまして約4,740万円ほどかかっております。

そのほかといたしましては、今回マイナンバーカードを活用して申請等をしていただく関係で、市役所の1階に相談の支援窓口を常時設置させていただいたのと、あとは公民館のほうでも巡回で支援窓口を設置させていただきました。

それらの窓口の支援業務といたしまして約950万円ほど、あとそのほかには、今回のこの事業をやるに当たりまして、案内用のホームページを作成したりとかLINEの広告、それからあと新聞広告、あと実際にチラシをポスティングで配布していただいたりとか、デジタル、アナログでPRさせていただいたその辺のPR業務といたしまして330万円ほどかかっておりまして、それらが主なものでございます。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 そこに登録した市民の方たちは、市民側はそうやって3,000円もらえるなっていう、あれはあるかもしれないけれども、市の側として何かメリットはありますか。

○藤原則文DX推進課長 お答えさせていただきます。

今回、主な目的として、先ほど少しお話しさせていただきましたけれども、まずコロナの関係で消費の下支えというところの部分と、あと、うちのほうといたしましては、マイナンバーカードの利活用を推進して、交付率も一定のところまで来ておりますので、今後、利活用を進めていく中でこういったものを取り組みながら、いろんな活用方法を模索するという意味でやらせていただいたところがございます。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっとマイナンバーカードに対する考え方というものはいろいろあるもので、自分もどちらかと言うと反対のほうなんだけれど、ただ、これをやると幾らもらえるよ、3,000円もらえるよ、あるいはマイナ保険証でやるとこれだけもらえるよというのが、そういうのがどんだんだんだん、それが今、物すごいやっぱり家計費も厳しい中で、幾らでも、ほんの3,000円でもあればこれが買えるな、でも、それは登録だけ、カードは申請したけど使っていないという人が多いというのが、深田議員の一般質問なんかでもあったわけなんですけれど、そういう中で市側のメリットというのを、これだけお金が全部で4,740万円でしたっけ、このお金を使ったことによって、市にいろんな経済がたくさん、少し回るようになったよという、その感覚というのはあるんですか。

○藤原則文DX推進課長 まず、経済部分のところでは言いますと、お一人様3,000円ではございますけれども、コロナ臨時交付金を出させていただいてやらせていただいているところではあります。

市側といたしましては、そのマイナンバーカードの利活用の部分で、やはりマイナンバーカードを使うことで厳密な本人確認をデジタル上でできるというところ、その辺の中で、今後、市といたしまして、子育ての方への個別の通知とか、今年も少しずついろいろ取組は始めているところではございますけれども、そういったものとか、あと、委員さんとかに対する直接的な数字、あと、今で言いますと、定額減税の給付金の申請とか、そういったものとかにもこういったマイナンバーカードの本人認証を活用させていただいて、できるだけデジタルで直ちに送れて速やかに申請していただいて、給付させていただくというようなところの取組を今模索しているところでございます。この辺を今後、市としてもさらに進めていきたいなと考えているところでございます。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 マイナンバーカードのいい悪いどうのこうの、それはここの議論じゃないのでやめます。

次に、同じページですけど、2款1項6目でスマートシティ推進事業費、ここで1,228万円があるんですけども、これの内訳について、まずお願いします。

○藤原則文DX推進課長 杉田副分科会長にお答えさせていただきます。

こちらのスマートシティ推進事業費の4,228万2,056円の内訳でございますけれども、主なものといたしましては、ほぼ委託料でございますが、まず令和4年度に構築させていただいたスマートシティの連携基盤やそれに基づく活用したサービスなどの保守運用等して2,450万円ほど、それから、昨年度につきましては、今後のスマートシティの市として目指すべき姿とか、その具体的な取組などを示すためのスマートシティY A I Z U推進方針というものを12月に作成させていただいているんですけども、この作成のための委託料が1,265万円。

それから、あと、こちら今申し上げました、構築したデータ連携基盤などを市の事業者の方に活用していただいて、中小企業などにつきましても、データドリブン経営等に取り組んでいただきたいということで、データ利活用促進事業といたしまして、市内の企業の方へ昨年度5社、実際に対応させていただいたんですけども、そちらの方へにドリブン、それぞれの課題に向けての伴走支援、それぞれの課題に向けての解決をデジタルでどんなことができるかというところの取組をさせていただいたデータ利活用促進事業で約490万円の委託料、これらが主なものでございます。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 一応全部委託なんですけれども、この委託先は全3社、みんな別ということでよろしいですか。

○藤原則文DX推進課長 杉田副分科会長おっしゃるとおり、それぞれ3社別々で個別で委託させていただいております。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 いろいろ、先ほどの中小企業の5社なんかにも、そういうところでいろいろ使って、それを利用したことによって、要は費用対効果というんですか、それをどのように評価されていますか。

○藤原則文DX推進課長 お答えさせていただきます。

昨年度の事業の内容といたしまして、まず全参加企業を対象にしたセミナーを5回や

らせていただいています。あと、それぞれの事業者ごとの課題に対する伴走支援はそれぞれの事業者に各5回ずつぐらいはそれぞれの企業と1対1でやらせていただいたりなどしております、あとはIT経営フォーラムへの参加、それから、参加事業者がほかの参加していない事業者等を対象にした成果報告会の発表会なども年度末にやらせていただいています。

なかなか今、副分科会長がおっしゃられた効果の部分というのは、すぐには示せていないところではございますけれども、今年度も少しその辺、例えば昨年度参加された方にフォローとかそういった部分も少しできないかなというところで考えてはいるところで、ちょっとその辺は今後、また少し考えていきたいと思っております。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 それだけ費用かけているもので、そんなに安い金額ではないと思うんですけど、でもこれだけ効果が上がっているよというのをフォローしていきたいなど。まだ続くわけですね。これをまた維持していくために、この今3つの委託先、これは単年度契約なのか、ずっと継続してそれをやっていくのか、それはどういうふうになっているんですか。ちょっと金額にすると覚えていなくてすみません。

○藤原則文DX推進課長 答えいたします。先ほど申し上げました3つの委託の部分のお話だと思いますけれども、まず、データ連携基盤やサービスの保守運用につきましては、構築事業者に依頼するものになります。こちらはいずれも単年度契約ではございません。

2つ目のスマートシティY A I Z U推進方針の策定は昨年度策定しておりますので、それでもう完了しているものでございます。

あと、データ利活用促進事業につきましては、こちらも単年度契約で、単年度で参加事業者完結させていただいて、あと今後フォローするとか、そういったところはまた別でございまして、単年度事業で実施をさせていただいているものでございます。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 先ほど答弁をいただいたんですけど、やっぱり今後、いろいろ、今まで参加していなかった企業等にもそのフォローをしていきたい。今までやってくれたところについても、あれはどういうふうに活きたのかということもやっていきたい。それがまた別の委託先になる可能性が、またこれも応募してやるのかどうかちょっと分かんないんですけど、そういうものをちゃんと取り組んだ委託先が、その委託先のやったことについて、どういう評価したのかというのはちょっと分かりませんが、そういうものを継続していくというときに、それが今後、利用サービスがどんどん拡大していきたいという、そういう思いがすごくあると思うんですけど、そのときに、こういう、今まだ拡大していないわけですね。拡大していないって始まったばかりだから。それを拡大していくために今後どうしようとしているのかというのを、今までやってくれたその委託業者を、続けてやる、やらないというのは、またそれは別のことなんですかね。

○藤原則文DX推進課長 答えさせていただきます。

このデータ利活用促進事業につきましては、今年度も同様の形で今実施をさせていただいてところではあるんですけども、やはりそのフォロー、昨年度の事業者にどこまで

フォローできるかというのは、ちょっと単年度契約なのでその辺は難しいところがあるのは正直なところございますけれども、なるべくフォローというのと、あとは、昨年、その事業の中で、基本的には事業者に自走していただきたいということが当然目的ではございますので、昨年度教わったところを活用していただいて、自分たちでやっていただくというのが基本的な姿勢ではあるんですけれども、それでできない部分とかはその企業、事業者さんが個別で別のところに委託をしたりとか、市のほうが直接関与するというわけではなく、例えば自前でできなければ、そこを少しフォローしてもらうところを自分たちで考えていただくとかということも見せるところではございますし、あと今年度も、それこそ昨年ちょっと申し上げました、発表会で来ていただいた方でやはり興味を持っていただいて参加していただいている事業者の方もいますので、その辺今後少しずつ広げて、事業を拡大というわけではないですけれども、なるべく広げていければなど考えているところではございます。

以上です。

○村松幸昌分科会長 関連で教えてください。

今このスマートシティ推進事業の中で、伴走支援とかの話で、企業が参加するセミナー、伴走支援等々のこの会社の実績というのかな、そこに出た会社が何社あったのか、また、その会社の業種は何なのか、会社の規模がそういうのはデータとして持っているんですか。それを教えてください。

○藤原則文DX推進課長 お答えさせていただきます。

昨年度、参加していただきました事業者は5社ございます。順番に、まず焼津市観光協会さんに参加していただきました。それから、あとJINというTUNALABOをやられている事業者さん、あちらも小さいところです。なので、規模は本当に大小まちまちで、それぞれ課題を持っている方がその課題を解決したいということで参加していただいています。あと、ツチヤコーポレーションさん、笑福の湯の関係です。やはりデータを活用したいというところの御意向がありました。あとは魚仲水産加工業協同組合さん、とくさんプラザでやはりやられている。あとは山福水産さん、こちらの5社なので、業種は若干、水産が複数ございますけれども、規模、業種共に様々なところで、それぞれデータ利活用をしたいとか、こういったことができないかという課題を持っている方に参加していただいているところでございます。

以上です。

○村松幸昌分科会長 ありがとうございます。それで、今いろんなところの5社の内訳を聞いたんですけども、市が狙っているところというのと、今この出てきた5社というのは大体想定しているような形の成果が出ているなって感じているんですか。

○藤原則文DX推進課長 おおむね、おっしゃるとおり合っているとは思っています。まず、市としましては、やはりどうしても、市だけに限らず全国的な話かもしれませんが、中小企業はどうしてもデジタルの部分とか、なかなか取組ができなかったりというところを課題として持っているところが多うございますので、まずは自分たち、本当は実際にはいろんな売上げデータを含め、いろんなデータを持っていて、活用できるものがあるということを知っていただいて、その活用の仕方とかを少しでも知ってもらえるようにというような、市としては主な目的で今実施しているところでござい

す。

○村松幸昌分科会長 今、市が持っているバックデータを、このセミナーの参加者とか伴走支援を求めている会社に情報の、これは限られていると思うんですけども、情報提供して、その会社がいわゆる少しでもプラスになるとかという形になるというふうな形になってくるのかなというふうなことが分かります。

それで、やっぱり行政ですので、最終的には、やはりこの中小企業が活性化して、市への納税額のアップとかというようなことが狙いなのかなというふうには、そういう想定というのははっきり何らかの形で市は示しているんでしょうかね。その辺がもし分かれば。部長でも。

○石原隆弘行政経営部長 今、課長のほうからいろいろお答えさせていただきまして、まずは、企業がデータを実はすごく持っているのに、自分たちが活用し切れていないという課題をすごく持っていただいています、それをまずはしっかり活用しようというところで去年やらせていただきました。実際に報告会のほうを見ますと、話を伺うと、かなり参加された事業者は手応えというか、そういうのは感じているように思っています。

ですから、私どもとしましては、それを今度横展開といいますか、例えば水産の企業に参加していただいていますので、ほかの水産の企業の会社にも情報共有をして、おたくの会社も同じようなことができるんじゃないかということで、横展開をして広げたいと、そういったことを地道に続ける中で、今、分科会長がおっしゃった市内の事業所の底上げが図られて税収等にも反映する、市が活性化すると、そこへしっかりつなげていきたいとは思っています。

ただ、具体的にそういったことを、そういった書き方はいろんな諸計画に書き込んではいないんですけど、スマートシティ推進方針、昨年度つくったそういった中、それからあとDX推進計画、そういったところに、その思い、エッセンスは入れているつもりですので、またそういった具体的な取組もしっかりやっていきたいと、そんなふうには思っています。

以上です。

○村松幸昌分科会長 分かりました。

○杉田源太郎副分科会長 183ページ、2款2項2目土地課税費なんですけれども、この金額、前年度と比べて、半分になっていると思うんですけども、50%ぐらいと書いてあったな。この半分になった理由は何でしょうか。

○片瀬能彰課税課長 都市につきましては、3年に1回評価替えを行いまして、4年度は評価替えに関わる委託料が3年に一度上がる年になりまして、その分が上がっていると。5年度はないものですから下がっているという形になります。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 半分の理由は分かりました。相続人のその調査、すべき内容だとか、そういうべき場合というのは、令和5年度は何件くらいありましたか。

○片瀬能彰課税課長 相続人の調査ですか。

○杉田源太郎副分科会長 何か市役所で相続人調査っていうのをしますよね。この中にも書いてあったかな。その仕事の中でやった中で、相続人調査という項目があったと思うんですけど。

- 片瀬能彰課税課長 当然、土地にしても家屋としましても、お亡くなりになりましたら、その後の税を引き継いでくれる方につきまして調査をするところなんです、すいません、件数につきましては集計をしていないものですから、件数は把握していません。
- 杉田源太郎副分科会長 聞きたかったのは、今その相続の問題で、結構何かあったもんだしているところが結構あって、何かそれがカウントできないというところが増えているのかなど。その辺でこのくらい、亡くなったら相続どうのこうのって当然あるんだけど、それが何ていうか登録をしない、し得ないというのか、しないというのか、たくさん多過ぎて、またそれがどういうふうに相続するか分からないままずっと伸びちゃっているというのも、今の法律の中でいろいろなってはきているんだけど、そういうものが焼津市内でもどのくらいあるのかなというものを確認したかったんですけど、それは分からないという。
- 片瀬能彰課税課長 副分科会長おっしゃるとおり、実数的には分からないと。ただ、副分科会長おっしゃるように、相続される方は当然、市内とは限りませんので、また、お子さんがいらっしゃらないとか、兄弟とか、いとことか、いろいろなところに相続があるものですから、かなり苦慮していることは苦慮しているんですけど、すいません、詳細につきましては把握してございません。
- 杉田源太郎副分科会長 それで苦慮しているのは分かるんだけど、でも、一応対象は分かっているわけですね。対象は分かっているけども、それがどうなっているか分からないもので、件数としては言えないというだけで、ただ対象は明らかになっているというだけで。分かりました。
- それで、もう一つ、これの調査だとかそういうものというのは、不動産の鑑定士さんだとか、あるいは司法書士さんなんかにも多分委託しているのではないかなと思うんですけど、その費用というのはどんなふうになっていますか。
- 村松幸昌分科会長 もう一度、今言っているその鑑定士とか司法書士が入る客体のことをもう少しはっきり、何を調査するときはその人に委託するのかという。
- 杉田源太郎副分科会長 私がちょっと聞きたかったのは、今のこの決算の中で、もし委託しているのであれば、その委託費がどのくらいになっているかというのをちょっと確認したい。委託しないなら、それはいいんですけど。
- 片瀬能彰課税課長 相続の調査等に関しては、委託はしてございません。
- 杉田源太郎副分科会長 いいです。
- 村松幸昌分科会長 いいですか。
- 杉田源太郎副分科会長 その件はいいです。
- 村松幸昌分科会長 ほかにありますか。
- 杉田源太郎副分科会長 いいですか。ちょっと昨日の深田議員が質問した中で、メモがし切れなくて、自分も音声データをももらったんだけど、文字起こしが十分できなくてあれなんですけれど、歳入のほうの1款1項1目、その中で、滞納繰越分のところを聞いたときに、均等割と所得割、これ合わせた金額で、件数だとかそういう区分はしていないということだったんですけど、ちょっとそこはなぜ。
- 前川英己納税促進課長 その件につきましては、市の収納については、そのデータをシステム上もできませんし、以後も使わないものですから、課税の段階では分かるんです

けれども、それが入ったり未納になったりした段階では必要ないものですから集計もしていない、システム上もできないということでもあります。

以上です。

○村松幸昌分科会長 課税課長、課税状況調べの話若干フォローアップしてくれば。

○片瀬能彰課税課長 税の関係の統計的な資料なんですけど、課税課においても課税課は賦課することが本来の仕事ですので、統計を取るとかの仕事ではありませんので。

ただ、自治法の規定によりまして、各税目につきまして調書を作成することが義務づけられています。これにつきましては、当初の課税の内容につきまして7月頃に県に出すんですが、これが唯一、市町村課税の統計的な資料になりまして、様々に活用されておりますので、当初の課税につきましては、ある程度分類をされて数字を申し上げることはできませんが、今、納税促進課長が申し上げましたように、徴収業務におきましては必要ないと。また、課税課におきまして、本来では課税課は賦課ですので、その後の決算ベース等々につきましては集計をしないのが現状です。

○杉田源太郎副分科会長 納得できないけれど。要は、均等割と所得割と分けてこうやって課税しているもので、当然ここを均等割で、今後その均等割と所得割というあれが変わってくるかもしれないけれど、やっぱりその均等割というのはダブリがあると自分で思っているもので、その辺のあれをちゃんと、件数とかそういうものは分けたほうがいいんじゃないかなど。そのままちょっと終わります。

あと、未収納の中で、所得が200万円以下の方が62%というふうなお答えだったと思います。その中で62%は200万円以下だけれど、そのほかの滞納繰越分の中の収納率の低い理由について、納税資力が低下したとか、あと行方不明の人がどうのこうのという、そんな説明があったと思うんですけど、62%が200万円以下、あと約40%の人というのがそこに当たるのかどうか。

○前川英己納税促進課長 200万円以下というのは、現年の市県民税の未納者の中の200万円以下の方です。残りの38%の方は200万円以上の方です。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 今、納税資力というんですか、そういうものが落ちたとか、行方不明や徴収が困難になったという方の割合ってどうなんですか。

○前川英己納税促進課長 まず、現年のうちに取りれる方は自主納付してもらったり、差押えで収納します。現年の収納率は99%を超えております。ほとんどの方が取れるんですけども、やはりここにあるように、納税資力のない方、行方不明の方はやっぱり取れないものですから、年々それが多くなって繰り越して、滞納繰越分の収納率がたしか39%市県民税ということになります。

○杉田源太郎副分科会長 あと、空き家の件数については、それは集計していないというような答弁だったと思うんですけど、空き家については、空き家対策ということでちゃんとやっていますよね。ここは空き家になっている、あそこも空き家になっているということで相続の問題も当然あると思うんですけど、その件で先ほどのお答えの中で確認はしているということだったので、それは情報を必要としないため集計していないというのと何かちょっと違うんじゃないかなど。

○石原隆弘行政経営部長 市として空き家の管理ですけども、一般質問の中でも市長か

都市政策部長のほうからお答えさせていただいていると思うんですけども、過去にそういう調査もして、それも継続しての管理はしていますので、都市政策部として空き家の管理というか、ある程度把握はできています。

ただ、固定資産税の課税上、そういった情報が要らないものですから、行政経営部としては、そういった空き家の情報は管理していないと。

ただ、制度上、特定空家というものは、少し課税に影響する部分がございますので、それについては都市政策部から情報がありまして、行政経営部としても、たしか現在4件だったと思いますけど、そういった特定空家の情報は当部でも管理していると、そんな状況でございます。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっと今、何ページか出てこないんですけど、コンビニで払ったり、あれ、どこやったっけ、ちょっと出てこなくなっちゃった。ごめんなさい。出てこない。すいません。これ、歳出になるかな、収納管理費だ、ごめんなさい、あっち行ったりこっち行ったりすみません。

○村松幸昌分科会長 183ページ。

○杉田源太郎副分科会長 この収納管理費のところの御説明の中で、納付の方法として、口座振替が55.7%で一番多かったと思います。それで、あとコンビニが24%とかなのかな、ちょっと見えなくなっちゃって分かんないんですけど、あと共通納税ですか、ちょっとよく分かんないんですけど、それが14%。そういう件数としてコンビニなんか非常に少ないんですけど、コンビニでの決済なんかは63.8円だったかな。それで、振替口座が11円なんですよ。この差がすごく多くて、コンビニでの利用率が少ない。コンビニ、スマホで1件当たり63.8円という、この金額というのはどこが決めるんですか。

○前川英己納税促進課長 昨日も答弁いたしたんですけども、口座については、主に市内の金融機関と交渉して決めるものですから、昔からそんなに高くないと。コンビニについては、全国的な収納代理業者と交渉するものですから、やっぱり全国なものですから、ちょっと値段が高いです。その金額についても、一応他市の状況も見て、妥当ならもちろん契約しますし、もし妥当でなければほかの業者と交渉ということで契約しております。まずは相手方が決めるものですから、それで決まっております。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 相手方と決めるので、こっちからは、それちょっと高くないですかというふうには言わないんですか。

○前川英己納税促進課長 もちろん他市と比べて高い場合は、もうちょっと安くしてくれとか、あとほかの業者に見積り取るとか。当然競争でやっておりますので、大体どこの会社も同じぐらいに出してきますので。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 市として、コンビニなんかでもできるから、どんどん納税は、そっちで便利なところでやってくださいよというのが大きな考え方だと思うんですけど、コンビニのほうで846万円だったかな。圧倒的に多い口座振替のほうで256万円です。この金額は、向こうが、相手が決めるものでしょうがないので、これについてどうこうは考えていませんということではかないのかな。それでいいんですか。

○前川英己納税促進課長 やはり市としましても口座を増やしたいものですから、現在の

直接銀行で納めている方、直納の方については、納税通知の中に口座振替申込み用紙を同封してしまして、口座でやってくださいということで、一応は推進をしておりますが、やはりコンビニですと24時間365日取められるものですから、やっぱり皆さん、そちらに流れる方が多いというのが現状であります。

以上でございます。

○村松幸昌分科会長 いいですか。いいですね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌分科会長 それでは、ほかにはないので、質疑、意見を打ち切ります。

以上で、予算決算審査特別委員会総務文教分科会の行政経営部所管部分の審査を終了いたします。

当局の皆さん、御苦労さまでした。

ここで休憩を取ります。

休憩（10：58～11：05）

○村松幸昌分科会長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、認第12号中、防災部所管部分を議題といたします。

それでは、質疑、意見のある分科会員は御発言をお願いいたします。

どうですか。

○村田正春分科会員 253ページ、9款1項2目消防団の力向上モデル事業費として499万2,485円。備品購入をしたということで、スマートフォン22台、タブレット18台、ドローン1機、あと雨衣1着とありますが、これを購入したことによってモデル事業となったのかというか、これ、モデル事業として応募して、これを購入したというふうに判断してよろしいのでしょうか。

○八木隆之地域防災課長 消防団の力向上モデル事業ですが、スマホとタブレットを買って、動態管理システムというシステムがありまして、火事が起こったときに、どこで火事が起こったか地図で出てきまして、タブレットを持っていますと、消防車両がその火災現場へ行くわけなんです、その場所が分かるといったことで、火災のときに非常に役に立つようなシステムでございます。そのスマホとタブレットを各分団に充てたというようなものです。

国の補助事業もありまして、それに応募しまして、それに採択されたというようなものでした。

以上です。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○村田正春分科会員 各分団に、それぞれスマートフォン、タブレットを配ったということでよろしいですか。全部で18。

○八木隆之地域防災課長 18分団です。

○村田正春分科会員 スマートフォンは22台、それは、あと4台分はどういう形になるんですか。

○八木隆之地域防災課長 スマートフォンの22台ですけれども、18の分団と女性隊とドロ

ーン隊と、あと本部に2台ということで配備しております。

以上です。

○村田正春分科会員 了解です。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

ほかにありますか。

○鈴木まゆみ分科会員 255ページの9款1項4目災害対策費、防災備蓄資機材整備事業費679万3,390円、これはアルファ化米の補充、飲料水、燃料の備蓄補充、遺体収容袋の購入で、アルファ化米の補充と飲料水、燃料の備蓄なんですけれども、お米と飲料水は賞味期限があるので、それはたしか防災訓練などに使われて、それがなくなったので購入するという、期限が近いので補充するという考えでいいんでしょうか。あと、その数を教えていただきたいです。

○八木隆之地域防災課長 まず、数なんですけれども、アルファ化米なんですけれども、全部で400箱を買っております。あと、水のほうなんですけど、水は550箱買いました。それぞれ賞味期限がありますので、賞味期限が来たものを新しく補充するというようなものです。

以上です。

○鈴木まゆみ分科会員 1箱というのは6個入りとか12個入りという感じなんですか。1箱の単位は。

○八木隆之地域防災課長 箱の内訳なんですけども、1箱当たり50袋入ってまして、1袋当たり50人分食べられるような量になっています。

以上です。

○鈴木まゆみ分科会員 50人分、じゃ、お米で言うと2,000人分という。

(「2,000食」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌分科会長 食だよ。

○鈴木まゆみ分科会員 2,000食。

○村松幸昌分科会長 その辺確認したほうがいい。

○山下 晃地域防災課防災対策担当主幹 お答えをさせていただきます。

アルファ化米につきましては、1箱で50食できるタイプになっておりまして、これを先ほど次長が説明しましたとおり、合計で400箱買っております。味もいろいろあるものですから、令和5年に関しましては2種類に分けて、200箱、200箱という形です。

水に関しましては、先ほど次長の説明で550箱という形でお答えをさせていただきましたが、中身に関しましては、500ミリリットルのペットボトルが24個入った状態のものを550箱購入させていただいております。いずれも5年保存という形で、期日を迎える年になりますと、各自主防災会に御要望をいただきまして、うちのほうとしては無駄にしないような形で、実際に訓練で使用していただいているという状況になっております。

以上でございます。

○鈴木まゆみ分科会員 ありがとうございます。

○原崎洋一分科会員 255ページの9款1項4目ですが、これが予算に対して決算額が約半分になっていますけど、この説明をお願いします。

- 村松幸昌分科会長 どこ、何款何項何目の。
- 原崎洋一分科会員 先ほども言いましたが、9款1項4目の備考の上から2段目かな、地域防災事務費。
- 村松幸昌分科会長 22万484円。
- 原崎洋一分科会員 はい。これが決算額ですが、予算から考えると約半分しか使っていませんけど、これは。説明をお願いします。
- 八木隆之地域防災課長 地域防災事務費の内訳でありますけれども、使った内訳ですが、出張旅費で22万484円を使っております。当初、もう少し出張の回数を多めに拾っていたんですが、埼玉と神奈川県へ行ったんですが、まとめて行ったものですから、回数を減らして出張旅費を抑えたというふうなものです。
- あと、直接行かないで、Zoom会議で行かないということで旅費を抑えたというふうなものです。
- 以上です。
- 原崎洋一分科会員 分かりました。
- 村松幸昌分科会長 ほかにありますか。
- 増井好典分科会員 先ほどの防災備蓄の資機材の事業費の件、679万3,000円ですね。先出しの方式だと思うんですね。当然、期限が来たものは先に出して訓練等に使う、それで、その補充をしていくという方法だと思うんですけども、逆に、ないとは思いますが、この予算の中の資機材を、例えばほかの災害があった場合、焼津市で使うのは、これ、もちろんなんですけど、焼津市以外に例えば使うというケースもなきにしもあらずだと思うんですね。
- 極端な話、正月にあった能登半島のああいって地震に協力して出さなきゃならないといったこともあるかもしれません。今回のこの決算の中にそういったものは含まれていないという解釈でいいでしょうか。
- 八木隆之地域防災課長 今回、ほかのところへお出ししたというのはないんですが、能登半島の関係で、消防の援助隊が行っておりますので、そこに物資として一部提供させてもらっております。
- 以上です。
- 増井好典分科会員 了解しました。
- 石川雅章防災部長 少し補足させていただきます。
- 今、分科会員のおっしゃられた、例えば能登半島という形で支援の形だと思うんですけど、これにつきましては、東海4県かな、そのところのルートで、何が欲しいのか、どういったものが逆に言うと市から協力ができるものがあるかと、そういったまず調べが行って、当然ながら、アルファ化米とか水、これについては、ここまではうちのほうで協力できるみたいな、そういった回答をしているんですけど、トータル的に、じゃ、能登半島の石川県なり、あちらのほうから、その中で何がどれだけ欲しいのかという回答が来て、それを、じゃ、静岡県として幾つとか、そういった分担するような計画というのが上がってくるんですけど、結果としては、今言った食料関係というもののうちのほうでの支援という、そういったものはなかったと、人的支援が一番大きかったんじゃないかなと思います。

以上です。補足ですみません。

○村松幸昌分科会長 副分科会長、いいですか。

○杉田源太郎副分科会長 すみません。どうぞ。

○村松幸昌分科会長 ごめんね、今の確認。この中の分じゃなくて全体的になんですけども、そうすると、私いつも思っていたことは、防災部は、焼津市内に防災本部も含めて、備蓄品が何がどのぐらいストックされているという情報は持っているんですか。

(「市の中の話ですか」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌分科会長 そうそう。自主防災会のほうにも、先入れ、先出しをするじゃないですか。先に入ったものを先に出していくという、その辺の管理というのは、一元化したデータを防災部のほうで持っているかどうかという、その質疑です。

○八木隆之地域防災課長 全体の数量は管理しております、その中で必要のあったものはお出しするものですから、管理はさせてもらっております。

以上です。

○村松幸昌分科会長 そうすると、いわゆる補充部分は、各自主防災会から毎年の請求をすると、防災部のほうで、例えば第3自主防災会はこれとこれ幾つというふうな形で納めていただけるという、そういうシステムになっているんですか。そういう、もしシステムが分かれば、ちょっと教えてください。

○八木隆之地域防災課長 各自主防災会から、欲しい、必要な備蓄品を調査しまして、それに基づいてお出ししておりますので、どこに何を出したかというのは管理しております。

以上です。

○村松幸昌分科会長 普通の商売で言うと、商品として考えると、棚卸しをするものから、自主防災会のほうでもしっかりしているところはやっていると思いますけれども、そういう認識を持ってもらったときに、きっと何かの役に立つのかないつも思っていますので、また引き続き、その辺の管理もお願いしたいと思います。

以上です。

じゃ、ほかにありますか。

○原崎洋一分科会員 管理上のことで、どこのページということじゃないんですが、先ほどアルファ化米とか飲み水を補充したという話ですが、私の記憶では、前に宇宙食とかというのを購入して、各自主防災会に配布したこともあると思うんですけども、そのことというのは、もう今後はやっていかないというような、そんなような方向の説明というのはどこかでされているんでしょうか。

○石川雅章防災部長 前、サバイバルフーズという形で、多分、神戸・淡路、あのときに一斉に全国的に缶詰になった食料品というので、その消費期限が20年以上たしかあったと思います。かなりの量をそのところで、ストックのほうしていたんですけど、25年ぐらいだったかな。2年前かそこらに、ちょうど期限が切れる年になったものですから、かなり廃棄もなかなか費用もかかりましたし、缶詰に入っているものですからね。分別をしたりとか、かなりそのところで手間がかかったんですけど、一応、今の計画、備蓄のストックの中では、同じようなものをまた大量に保管するという考えは、今ありません。先ほど言いましたアルファ化米でしたら、5年間のローテーションで分散

しながら新しい物に入れ替えていくとかそういった形、あと、調達の方法も、いわゆる協定でいろんなところから入るようなシステムを組んでいますので。ただ、当然ながら、すぐに着くというわけではないものですから、一時的な応急食料、これについては、しっかりと計画に基づいて保管のほうをすると、そういった方向で進めたいと考えております。

以上です。

○原崎洋一分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○原崎洋一分科会員 はい。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○杉田源太郎副分科会長 253ページですけど、9款1項2目消防団員事務費ですか、ここで8,424万幾らとあるんですけれど、これの内訳について教えてください。

○八木隆之地域防災課長 消防団員の報酬費の内訳ですけれども、消防団の年額報酬が555人分で1,922万34円、それから消防団員の出勤報酬、それが4,029万2,000円、それから退職報奨金、これが20人分になりますけれども565万円、障害補償等の関係の掛金、これが1,415万1,757円、それから消防団員の福祉の共済加入掛金、これが167万9,750円が主なものになります。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 前もちょっと、これ1回聞いたことは、ちょっといつだったか覚えていないんですけれど、今、555人に対して年額で払われたということなんですけれど、これは当然、何年、何年、何年というランクがあると思うんですけど、それによって多分違うんじゃないかなと思うんですけれど、人によって、消防団に払われたんじゃないかと、個別に払われている、その払われ方というのは、その人の口座とかそういうところに振込と、そういうことでよろしいですか。

○八木隆之地域防災課長 支払いの方法なんですけど、それぞれの方に、それぞれの口座にお支払いをしているという状況です。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 分かりました。以前に、ちょっと古い話かもしれないけど、何か消防団に隊員ごとに払われて、それが、その消防団で飲み食いに使われたりとか、どこか旅行へ行くだとかそういうのがあったけど、それはまずいよということでそういうふうになっているということで、今はもう、それはやっていないよということでいいですね。分かりました。

ちょっと、続けていいですか。

○村松幸昌分科会長 はい、どうぞ。

○杉田源太郎副分科会長 その次の同じ9款1項2目になりますけれども、消防団活動費、ここで2,370万円ぐらいあります。この内訳をちょっと教えてください。

○八木隆之地域防災課長 内容なんですけれども、活動服などの被服費と、それから消防ホースなどの備品の費用等になります。あと、運営事業交付金、消防団員への交付金になります。それらが内訳になります。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 今言った防災服と言うんですか、それとか、ホースだとか、そういうものというのは、やはりすごく高いんだろなというふうな感じがする。その内訳といったところ、これはもうほとんどだということですか。

○八木隆之地域防災課長 主なものは、交付金が主なものになります。
以上です。

○杉田源太郎副分科会長 結局それ、交付金が主なだけで、防火用の衣服ですか、これに幾らで、活動服というか、説明には活動服と書いてありますよね。ちょっと活動服と防火着というのと、防火着というのは多分、火事のとときに何かものすごくたくさん着こんで、夏の暑いときもやっていたけれど、あれじゃないかなと思うんですけど、活動服というのが幾らで、あるいは可搬ポンプだとかあるいは消防ポンプ、そういうもののそういう整備を行ったというふうにあるんですよ。だから、こういうものの中で、防火着というのは、ずっと今まで消防団をやっていた方というのは自分で持っているわけですよ。年ごとに何か更新されるという、そういうことはないんですよ。

新しく入団された方、その方たちの防火着、あるいは活動着というふうに解釈しているのか、それから、あと可搬ポンプだとか消防ポンプというのは、どこの消防団に何基やったのかということというのは分かっているんですよ。それをちょっと教えてください。

○岡村裕介地域防災課防災対策担当係長 ただいまの質疑にお答えします。

防火衣に関しては、各分団ごとに支給しておりまして、18分団でおよそ2年ごとに1着のペースで支給しております。活動服、ヘルメット等は個人支給になりますので、基本的に新入団員、およそ30人を見込んでいるんですけども、30人をめどに購入しているものになります。

詳細の内訳はないんですけども、活動費については、被服に関しては356万7,575円、その中でも防火服に関しては127万5,755円となっております。

資機材に関してですけれども、ホースについても、2年に1本ぐらいのペースで更新のほうを計画しております。可搬ポンプに関しては、計画的に更新のほうをしております。可搬ポンプに関しては、2台購入しまして205万7,000円、消防ホースに関しては、昨年度14本購入しまして60万600円、あとガス発電機のほう、こちらは本部で使用しましたけれども、9万4,380円を購入しております。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 前年度に比較して十四、五%伸びていると思うんですけど、昨年度比十数%増えていると思うんですけど、この原因というのは、その要因というのは何ですか。

○岡村裕介地域防災課防災対策担当係長 活動費全体でよろしいですか。

○杉田源太郎副分科会長 そうです。

○村松幸昌分科会長 発言、手を挙げて。

○岡村裕介地域防災課防災対策担当係長 消防団活動費ですけれども、先ほどあった中で、被服と資機材と交付金のものもあるんですけども、交付金に関しては全額使用しておりまして、変化はありません。

消防団の出初め式の費用だったりはこの交付金なんですけれども、その辺に対しては

費用がありませんので、被服の購入と備品購入の金額が上がると考えております。

以上でございます。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○杉田源太郎副分科会長 分かりました。

あとちょっと、消防団は一生懸命、地域でも頑張っているというのは知っているんですけど、消防団の運営というのはどういうことを運営と言うんですか。

○岡村裕介地域防災課防災対策担当係長 運営というのは、運営交付金のことということでしょうか。

○杉田源太郎副分科会長 いや、説明のところに、消防団の運営について適正に実施したと書いてあったもので、消防団の運営について、運営と書いてあったもので、その辺、何かなど。

○岡村裕介地域防災課防災対策担当係長 お答えします。

それに関しては運営交付金のことを指しております、消防団の各分団に運営交付金のほうを分配しながら、あと、各消防団長のほうで管理しながら、消防団の運営交付金のほうを使用しております。その中で、資機材の購入であったり、各分団の研修であったり、訓練だったり等の件について、運営交付金については適正に執行しておりますということになります。

以上になります。

○杉田源太郎副分科会長 支援を適正にやっているよという、そういうことかな。

消防団の運営じゃないんだよね、これ。

○岡村裕介地域防災課防災対策担当係長 そうです。すみません。

○杉田源太郎副分科会長 消防団のそのものの運営に何か絡んでいるのかなと思ったもので。分かりました。

○村松幸昌分科会長 ほかに誰かありますか。

杉田副分科会長、まだありますか。

○杉田源太郎副分科会長 255ページです。9款1項4目災害対策事務費、650万円ぐらいあるんですけど、これのちょっと内訳をお願いいたします。

○小長谷雅彦防災計画課長 災害対策事務費の内訳でございます。

1つずつちょっと説明をさせていただきますと、まず、普通旅費、旅費ですね、県庁へ行ったりですとか、あと、その場所で会議があった場合に、電車で行ったりとか、そういった旅費が1,440円、それから消耗品です。コピー、コピー用紙とかトナー、そういった事務用品のお金が27万954円、それから、印刷製本費としまして世帯家族調べ、それから地域防災計画、そちらの印刷に要した費用が127万7,243円、それから、庁舎の電話回線使用料が54万2,247円、それと電気自動車、リーフを今所有していますが、そちらの自動車の定期点検が9,900円と、それから、こちらが一番大きいものなんですが、令和4年に導入しました災害情報共有システム、そちらの運用、保守、そちらが369万6,000円になります。それから、世帯家族調べの仕分け、梱包作業がございまして、そちらをお願いするのに19万6,865円、あとはNHKの受信料が2万8,409円、それと、研修へ行ったりするときの駐車場代ですとか、あと、パワームーバーライト、リーフを災害時に電気に変換する場合のそういった装置を購入しております、それが47万3,000円、あ

とは、中越大震災ネットワークおぢやという、ちょっと会員になっておりまして、そちらの会員費用が1万円ということで650万6,353円という内容になっております。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 今、説明いただいた中で、今年度は、昨年度に比べて約300%、323.2%と書いてあったと思うんですけど、この理由は何ですか。

○小長谷雅彦防災計画課長 今年が増えているということですかね。

○杉田源太郎副分科会長 今年増えているということですよ。

○小長谷雅彦防災計画課長 令和6年と比べて、令和5年が少ないというふうに。

○杉田源太郎副分科会長 これ決算なもので。

○小長谷雅彦防災計画課長 決算、令和4年に対して。

○杉田源太郎副分科会長 令和4年に対してということじゃないですか。

○小長谷雅彦防災計画課長 すみません。先ほど申しあげました災害情報共有システム、こちらを令和4年に導入いたしまして、令和5年度から運用が始まっていますので、その運用保守に係る費用が増額となっております。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 そういうことか。ちょっといいですか。

もう一つ、説明の中に、災害情報共有システムについて運用体制の構築を図ったと書いてあるんですけど、運用体制の構築というのは、ちょっと具体的にどういうことですか。

○小長谷雅彦防災計画課長 先ほどちょっと申しあげましたけども、令和4年度にシステムを導入いたしまして、令和5年度はそれを運用してという中で、実際の訓練ですとか、あと実災害、そういったところで実際に運用いたしまして、その機能がスムーズに円滑に利用できるよということ、そういったところで運用をいろいろ検討しながら行ったということでございます。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 分かりました。

次に、同じ255ページの9款1項4目の中の防災訓練費83万7,000円、これの概要について説明をお願いいたします。

○山下 晃地域防災課防災対策担当主幹 お答えをさせていただきます。

防災訓練推進費につきましては、毎年実施しております年3回、自主防災会に大がかりにお願いしています総合防災訓練、地域防災訓練、あと災害時初動訓練等のもの、それから、あとほかにも、シェークアウト訓練でありますとか、自主防救助隊の訓練などを実施しております。その金額の内訳の大半は消耗品費になっておりまして、83万7,000円のうち約49万3,000円ほど、これは需用費として、印刷製本であるとか消耗品のほうに充てております。

あと、一部、救命艇を使ったりする訓練もございますので、そうした物件を動かすための委託費など5万円ほどこれに含んでおります。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 今のそこ、聞きたかったところの1つなんですけど、委託費という、その委託費というのは何ですか。

○山下 晃地域防災課防災対策担当主幹 お答えします。

救命艇を大井川漁業協同組合さんのところで陸揚げをしてあるんですけども、それを、訓練するたびにクレーンでつって水面に戻すというところの業務を委託させていただいております。

以上です。

○村松幸昌分科会長 ほかに。

○杉田源太郎副分科会長 255ページで、9款1項4目の中の自主防災組織育成費というのがあります。1,768万円というのがあるんですけど、この自主防災会に対する補助金について、ちょっと説明してください。

○八木隆之地域防災課長 地域防災組織育成費の内訳ですけども、組織の運営費として、各自主防災会に交付する防災に関する補助金、それから、資機材整備をする際の自主防災会の整備費の一部の交付金、補助金、それから、防火井戸の修繕、設置費等になります。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 今の井戸の補修費という、防火用の井戸の補修というのがあったんですけど、防火用の井戸というのは、基本的に市で管理をしているということではないんですか。

○八木隆之地域防災課長 防火用の井戸なんですけど、ここで見ているのは、自主防災会さんが所有されている防火用の井戸の費用になります。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっとこの前もね、大雨のときに、うちの横のあれがあふれちゃったもので、これはどこの管理なのかと言ったけど、まだ調べてもらうということだったけど、忙しくて、多分まだ調べられていないかなと。それは町内会の問題だと言われたいのかもしれないんですけど、ちょっと、そういう井戸の、自主防災会が管理している井戸というのは全部でどのくらいあるんですか。

○八木隆之地域防災課長 各自主防災会さんで維持管理されている井戸なんですけど、こちらでは把握しておりません。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 ということは、井戸の修理だとかそういうものに使ったということは、自主防災会のほうから申請があったものに対してやっているということではないですか。今お答えになったもので、それがあったとしたら何件ぐらいありますか。

○八木隆之地域防災課長 昨年度ですけども、井戸の補修が2件ございました。これらは自主防災会さんのほうから申請があったものになります。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 全部で76の自治会、今は違っているか。

○村松幸昌分科会長 74。

○杉田源太郎副分科会長 自主防災会があって、そこに補助金という、今お答えいただいたんですけど、自主防災会は地域によって大きさが結構違うと思うんですけど、何か補助金の金額、基準というのがあるんですか。

○山下 晃地域防災課防災対策担当主幹 上限を設けておりまして、基本的には、補助率

に関しては4分の3の範囲の中で、限度額30万円という形で補助金のほうを出させていた
ただいております。件数に関しましては、ちょっと年によってばらついておりまして、
先ほどの修繕に関しては、令和4年度はない状態でございます。いずれも補助金の説明
会というものを年度当初にやらせていただいております、その中で要綱を御案内しな
がら、補助申請の仕方、書類の書き方等についても御案内をしているところでございま
す。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 また続けて、9款1項4目ですけれど、防災機器費、実施プロ
グラム推進事業費というんですか、ここに1,882万円あります。これはかなりちょっと
高額だなと思うんですけれど、この内容について説明してください。

○小長谷雅彦防災計画課長 公共施設保全プログラム推進事業費の内訳でございますけれ
ども、維持補修工事費としまして、こちら、消防防災センター、防災部のいる消防防災
センターがありますが、そちらの高圧ケーブルが老朽化に伴う改修を行っております。
これが612万7,000円、それから、サーバー室が、DXの施設があるんですけれども、そ
ういった施設の空調機のこれも老朽化に伴う更新工事を行ってございまして、これが1,269
万4,000円で、締めて1,882万1,000円ということになります。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 今のお答えの中で、老朽化ということだったんですけど、これ
は、昨年度とほとんど同じ金額だと思うんですけど、10%ぐらい多くなっているんです
けれど、これは老朽化しているのを順番に何か修理しているのか、老朽化はもう昨年度
やったよ、でも、また今年度もだよという、そういう感じなのか。

○小長谷雅彦防災計画課長 施設の公共施設保全プログラムということに年次計画で上げ
させていただいております、この年、令和5年のこちらについては、高圧ケーブルの
改修工事と空調室、ここでこれが終わってございまして、もう今後は、この工事については
ありません。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 じゃ、その項目が違うけれど、でも大体同じぐらいの値段を毎
年毎年かかっているよという、別の項目だけれど同じぐらいの値段でやっているよとい
う、そういうことですか。値段というか価格。

○小長谷雅彦防災計画課長 年次計画を立てまして、順次更新していくという格好で、単
年度に偏らないように。もちろん、そのときにやらなくちゃならないものもあるんです
けれど、そういったことで計画的にやっていると。

○杉田源太郎副分科会長 優先順位ごとにやっているということですかね。

○小長谷雅彦防災計画課長 そうです。

○杉田源太郎副分科会長 了解です。

同じですけれど、9款1項4目の中で防災施設管理費、防災学習室維持管理費という
ところで578万円ありますけれど、これはどういう内容ですか。

○山下 晃地域防災課防災対策担当主幹 今、御質疑いただきました防災学習室維持管理
費578万円に関することですが、こちらに関しましては、消防防災センターの1階にご
ざいます防災学習室しえ～、これを運用していくための経費となっております。

主なものに関しましては、578万円のうち約171万円、これが市のほうで任用しております会計年度任用職員さんの報酬というか費用になります。この方につきましては、私どもと同じ平日勤務をしております。土曜、日曜に関しましては、シルバー人材センターさんと人材派遣会社に運営を委託しております、この関係の費用が約320万円を占めているものでございます。

そのほかに関しましては、安全にお使いいただくための保守点検等に費用を要しているものでございます。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 会計年度職員のほうは分かるんだけど、シルバーさんに土日を、運用を頼んでいるという、そこで320万円ということで、何かすごく金額が大きいなと思ったんだけど、土日フルタイムというか、時間的にはどうなんです。

○山下 晃地域防災課防災対策担当主幹 開館時間に関しましては、9時から5時までという形でやっております。

それで、リニューアルを平成29年でしたか、しまして、大分コンピューター系の制御が多くなってきておまして、一部、お若い方もいていただいたほうが扱いに十分な対応ができるのではないかということで、シルバー人材センターさんに加えて人材派遣会社の方も入れておしますので、土日に関しましては、3人から4人ぐらいで御案内をしておりますので、その辺の厚い部分が費用に跳ね返っているものと思います。

よろしく願いいたします。

○杉田源太郎副分科会長 了解です。

同じく、都市防災推進事業の中で、津波対策施設維持管理事業費の中で、58万幾らということになっていて、タワーの点検を年3回行っている、外工事や補修、清掃を行ったということがあるんですけど、この借地料の支払い、これも含めて58万4,000円、これ、タワー全部のことを言っているんですか。

○小長谷雅彦防災計画課長 タワーの点検につきましては、職員が自分たちで年3回。

○杉田源太郎副分科会長 全てのタワーを。

○小長谷雅彦防災計画課長 はい。行っております。そういった中で、例えば故障ですか、施設のタワーのほうのちょっと故障だとか、電気の故障ですか、そういったものがあれば、そういったことを直ささせていただいております。

主には、昨年度の金額の中で大きかったものは、故障の修繕、そういったものがあります。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 最後に、その下の都市防災推進事業費で津波避難対策推進事業費、同じなんですけれど、避難誘導標識4本を今回立てたというふうにあります。そして、あと、防災地図を900部増刷したというふうに説明があります。この避難誘導標識ですか、それはどこに新たに設置したということと、この地図はどのように使ったんですか。

○小長谷雅彦防災計画課長 避難誘導標識につきましては、もともとあったものを、ちょっと老朽化に伴いまして更新したのが4基ございます。それから、防災地図でございますけれども、こちらにつきましては、能登の震災、地震を受けまして、やはり皆さん、

取りに来られるというか、そういったことが多くありまして、年度末にちょっと部数が足りなくなったということで、既存の防災地図、それを増刷したということでございます。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 どこに配布したんですか。

○小長谷雅彦防災計画課長 防災地図は配布ではなくて、いつも本庁の市民課、新しく転入される方ですとか、あとうちの防災部のほうに置いてありまして、そういったところに必要な方が取りに来られると、そういうことでございます。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 了解。終わります。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌分科会長 ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

以上で予算決算審査特別委員会、総務文教分科会の防災部所管部分の審査を終了いたします。

当局の皆様、御苦労さまでした。

ここで13時まで休憩といたします。

休憩（11：59～12：57）

○村松幸昌分科会長 それでは、予定時間より前ですけども、休憩前に引き続き会議を始めます。

次に、認第12号中、生きがい・交流部所管部分を議題といたします。

それでは、質疑、意見のある分科会員は御発言をお願いします。

○杉田源太郎副分科会長 271ページ、10款5項1目文化財保護費として花沢地区のビクターセンター管理運営事業費のところ、158万円が決算で報告されていますけれど、こここのところの内容で、私も年がら年中行っているということではないんですけど、ちょっと何人かの人から、あそこどうだねという話の中で、時々行くんですけど、訪問するとあまり人がいないねという、そういうことをちょっと聞いているんですけど、来場者が1万7,630人ほどという説明があったと思うんですけど、来場者数1万7,630人って書いてありますよね。この人数というのはどうやってカウントしたんでしょうか。

○日下部 充文化振興課長 こちらは花沢地区保存会のほうに管理運営委託をしまして、そちらのほうで来場者のカウントをしていただいております。

○杉田源太郎副分科会長 これ、1年間ですよ。1年間で1万7,630人っていうと、かなり人数的には多いかと、すごいな、あそこ改築した後、それだけみんなが注目してくれているんだというふうに最初思ったんですけど、自分もあそこができた後、2回しかちょっと行ってないもんで、分かんないんですけど、そのときは数人はいたんですけど、あそこの入り口から高草山だ、何だっけ、満観峰、そっちにしょっちゅう行っている人がいて、そこのところ時々寄ってくるんだけど、ほとんどいないねみたいなことを言われたもんで。今カウントしているのは、現地で委託というかお願いしているもので

ということだったんだけど、その人は何か、入場者が来ると、何か名前書くとか、そういうことってしてるんですか。

○日下部 充文化振興課長 推計という形で。

○杉田源太郎副分科会長 推定。

○日下部 充文化振興課長 推計。

○杉田源太郎副分科会長 あっ、推計。当然休みの日だとか、そういう日は来てくれるのかなとは思うんだけど、推計と言われると、今日はたくさんいたから100人にしようかとか、そういうアバウトなところで、1万7,630人ほどというふうに書いてあるもので、それはそれではないけれど、だけど、1万7,600まではちゃんと数字で書いてあるので、それを52週で割って、それで土曜日も入れると、100で割ると、大体1週間にこのくらい来ているんだなというのは見えるのかもしれない。1週間の中だと、土曜、日曜でこれだけある、一月のうちの1日だか2日だか、それをカウントして、それを実測じゃなくて、そんな感じでやっているんだとして、それで大丈夫なのかなという。

いや、あそこはすごく評判になっているというか、それはすごく聞いているもので、もっと行っているんだろう、これだけ行ってるんなら、これだけ行ってるという報告がここに書いてあったので、よかったなというふうに思ったんだけど、だけど、さっき言ったように、しょっちゅう行ってる人が、あそこ、しょっちゅう通るんだけど、いねえなと言われたもので。

分かりました。じゃ、そういうものも何か、その人はまだ、自分あんまりホームページを見てもよく分からないほうなんだけれど、その人はホームページをちょっと見るらしいんだけど、その人がホームページ見ても、何か利用目的が何かよく分かんないなみたいな、そんなちょっと感想を述べられたんだけど、その辺に何か、もっと自由にみんなが見られるような、その目的だとかそういうものが分かるような、そういうものというのはできますか。

○日下部 充文化振興課長 今、副分科会長おっしゃったのは、もっとホームページのほうで御紹介をということですか。

○杉田源太郎副分科会長 はい。

○日下部 充文化振興課長 そうですね。一応、今、ホームページ等で紹介をさせていただいているんですけど、今、副分科会長おっしゃったような形で、そういった来訪者が分かるような形で、ホームページのほうにも記載できるような形で考えていきたいと思っております。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○原崎洋一分科会員 269ページ、10款5項1目の備考のところ、公民館成人教育事業費、これが各公民館によって決算額に大分ばらつきがあるように思うんですけども、これは人口によってこういうふうになってしまうのか、それとも公民館の計画でそういうふうな、結果としてこういうふうになっちゃっているのか、その辺の説明をお願いします。

○増井 悟スマイルライフ推進課長 成人教育のところでございますが、結果的にこういうふうにはなっております、基本的にこのところは、高齢者学級であるとか社会学

級、あとは女性学級のようなものを主催して実施をしております。こちらについては、各交流センターのほうで企画運営をしていただいております、例えば講師によっては謝礼がかからなかったりとかいうものもございますので、その辺は交流センターの特色を出していただきながらやっていただいております。ですので、こちらの数字については、結果的にこうなっているということで御理解いただきたいと思っております。

○原崎洋一分科会員 この交流センターごとの申告で、上限とか何か基準があるんでしょうか。

○増井 悟スマイルライフ推進課長 例えば講師の謝礼で言いますと、市内に在住の方ですとおおむね8,000円程度といった、講師の謝礼については、基準のほうをある程度設けさせていただいておりますが、それ以外については、特に基準というものは持っておりませんので、各センターごとの企画ということになっております。

以上です。

○原崎洋一分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○鈴木まゆみ分科会員 267ページです。10款5項1目の家庭教育学級費309万4,094円です。こちらは学習会を開催されたということで、私立幼稚園5学級、公立幼稚園6学級、市主催の一般1学級の全12学級においてということなんですけれども、おおよそ毎年、多分変わらずにあると思うんですけれども、執行歩合が73.6%ということで、回数が減ったとか、そういった要因というのがあるんでしょうか。

○増井 悟スマイルライフ推進課長 特に大きな要因というのはございませんけれども、こちら各学級ごとに企画を考えていただきまして、やっていただいているものになります。例えば、市の職員の講師を呼んで何か講座をやればお金がかからないとかというものもございまして、一応結果としてこういう形になっておりまして、回数自体は、令和4年度と比較いたしましても、令和4年度が46回の開催ですので、それほど大幅に減っているわけではございませんので、結果的にちょっと支出のほうが少ないのかなということで考えております。

以上です。

○鈴木まゆみ分科会員 ありがとうございます。

続けていいですか。

○村松幸昌分科会長 はい。

○鈴木まゆみ分科会員 同じく10款5項1目です。123万3,799円、家庭の教育力支援事業費。

269ページです。すくすく広場の交流ですけれども、家庭教育ネットワーカーを3人派遣しているんですけれども、その家庭教育ネットワーカーというのが分からないので、教えてください。

○増井 悟スマイルライフ推進課長 家庭教育ネットワーカーさんについては、ほぼほぼボランティアさんに近い形で、子育てを今まで経験された方であるとか、幼稚園の教諭を経験された方とか、そういった子育てをある程度経験された方に、要はサポーターみたいな形をお願いをしているものです。

具体的に何をやっているかといいますと、要は、ここの事業が、ママ友グループ、マ

マ友、パパ友グループをつくりましょうみたいな、そんなイメージのものと思っていたらいいんですが、そういったものを公民館を使いながら開催をしております。

要は、ママ友さんに集まってきていただいたんですけども、そこで一体何をやろうかといったときに、進行役を買っていただいたりとか、そういった役割を主にはやっていたらいい方でございます。

今のところ3人お願いをしております、本当に僅かな謝礼でやっていたらいいような状況でございます。

以上です。

○鈴木まゆみ分科会員 そのネットワーカーさんは、一応何かこう、市に登録をしてという手続があるんでしょうか。

○増井 悟スマイルライフ推進課長 特に登録の制度というものはございませんけれども、今までやってこられた方が交代をしたいよといったときに後釜を御紹介いただいたりとか、あとは我々のほうで、こういった人がいるよといううわさを聞いたときに、ちょっとお声をかせていただいております、そんな状況でございます。

○鈴木まゆみ分科会員 ボランティアさんという感じなんですね。

○増井 悟スマイルライフ推進課長 そうですね。

○鈴木まゆみ分科会員 ありがとうございます。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○村田正春分科会員 271ページ、10款5項2目公民館運営審議会費28万8,460円、その話合ひの中で、公民館事業や公民館の地域交流センター移行について審議し、多くの意見をいただいたとありますが、これはどんな意見があったのでしょうか、伺います。

○増井 悟スマイルライフ推進課長 こちらの審議は3回ほどやっていたらいいまして、実際に移行に当たってのまずは条例の中身であるとか、あとは施設の利用の形態、貸し館の条件だとか、そういったものをたたき台をつくった中で委員の皆様はたたいていただいております、御審議のほうをいただいたというふうに記憶してございます。

以上です。

○村田正春分科会員 そういう話をした上で、委員の方々から多くの意見をいただいたらいいのは、どんな意見が出たんでしょうか。

○増井 悟スマイルライフ推進課長 例えば、移行に当たりましては、公民館の枠が取れるものですから、より多くの方に利用していただくということから、例えばどんな方々を対象にするとか、民間のところはどこまで認めるのかとか、あとは金銭的な問題はどのようにするのかとか、あとは、これまでずっと公民館の時代は自主講座の方々がいらっしゃって活動していただいていたんですけども、そういった方々をどういうふうに移行していくのかとか、そういったところでいろんな御意見をいただいて、できる限り公民館時代の利用者に不利益にならないようにしてほしいであるとか、料金形態については大幅に値上げをするとか、そういったものがないよといった御意見とか、あとは、なるべく貸し館に当たっても皆さんに使っていただきやすい、そういったことの御意見を頂戴したということ聞いております。

以上です。

○村田正春分科会員 ありがとうございます。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

ほかにありますか。

○杉田源太郎副分科会長 273ページの10款5項4目の文化施設管理運営費、天文科学館の管理運営費、この2億300万円、約400万円ですか、これの内訳について。プラネタリウムについて何か新しくなって、物すごくたくさん人が来てもらっているという、そういういい評判はすごく聞いてはいるんですけど、その点についてお願いいたします。

○日下部 充文化振興課長 天文科学館管理運営費の内訳ですけれども、主に需用費、委託料、使用料及び賃借料という形になっております。

○杉田源太郎副分科会長 それで金額。委託が多いと思うんですが。

○日下部 充文化振興課長 内訳ですけれども、需要費のほうが1,479万5,000円、委託料のほうが1億9,253万7,000円、使用料及び賃借料のほうですけれども、233万円130円、あと、備品購入費としまして325万9,740円という形になっております。

○杉田源太郎副分科会長 説明の中に、プラネタリウムの音響機器及びワイヤレスシステムの更新や空調設備の修繕を行ったというふうに書いてあるんですけど、何か老朽化しているものがかなり増えてきているというような、そういうことですか。

○日下部 充文化振興課長 今、副分科会長おっしゃったように、天文科学館が開館して以来、そういったものの音響機器等のシステムの更新をしていなかったものですから、そちらのものの更新という形で金額が上がっているということになります。

○杉田源太郎副分科会長 すいません、その費用です。

○日下部 充文化振興課長 プラネタリウムの修繕で231万円という形になっております。

○杉田源太郎副分科会長 終わります。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○増井好典分科会員 273ページ、10款5項4目公共施設保全計画実施プログラム推進事業費（大井川文化会館）935万円とあります。それで、公共施設保全計画実施プログラム推進事業に基づき、外壁打診調査及び改修工事設計業務委託を行ったとありますが、この執行歩合が57%なんですけど、これはどういう理由なんですか。すいません、もしかして前に誰か聞いておったかもしれないですけど、お願いします。

○日下部 充文化振興課長 執行率の57%ということですけども、外部タイル打診調査及び改修工事設計業務委託の入札の差金という形になるものですから、執行率の差が。すいません、委託料の見積り合わせの差金という形になります。

○村田正春分科会員 ちょっとそれ、よく分からない。差金。

（「差金」と呼ぶ者あり）

○村田正春分科会員 差金。ちょっとそれ、説明していただけたら。すいません。

○村松幸昌分科会長 差金という意味を説明するわけですか。じゃなくて、事業の中身を。どっちなんですか。

○村田正春分科会員 事業の。差金。

○村松幸昌分科会長 差額。

○村田正春分科会員 ああ、差額。

○村松幸昌分科会長 もう一度、じゃあ。

○日下部 充文化振興課長 予算に対しまして、見積り合わせ額が決まった決定額が935

万円という形になるものですから、そちらの差額の分が705万1,000円になっているもの
ですから、予算額に対しての差額がそちらになっていますから、執行率として57%とい
う形になります。予算額に対しての執行額に対しての差、率という形になるものすか
ら。

○村松幸昌分科会長 分かんないや、分かるまで聞かないと駄目ですから。もう一度。

○村田正春分科会員 じゃ、安く委託できたということなんですか。

○日下部 充文化振興課長 分科会員おっしゃるとおりでございます。

○村田正春分科会員 ありがとうございます。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

私でいいですか。

すいません。ページ275、下から2番目のスポーツ少年団支援事業費31万5,000円、こ
れは金額よりも、今スポーツ少年団の現状を教えてください。

○河守邦人スポーツ課長 スポーツ少年団は、現在までは、少子化の影響もありまして少
年団の数は減っておりますけども、活動自体はこれまでどおり行っていると聞いており
ます。

ただ、今後、中学校の部活動の移行もありまして、そういったところの受皿として、
少年団の指導者等もそういった受皿となっていくということもありまして、これから
中学生も含めた形で少年団活動というのも行われていく可能性もあるということで、そ
ういった検討も出ていると聞いております。

以上です。

○村松幸昌分科会長 まさしく私が思っているところがそこなんです。結局、地域へ中学
校スポーツとかいろんなのを下ろすということで、既に学校に部活がないところ、あっ
たんだけでもなくなってしまった、例えば水泳だとか、野球だとかというのがもうな
くなっていく学校もあるというんだけど、このスポーツ少年団という、私の認識だと
小学生までじゃないですか。だから、ここを発展的に解消して、何とか受皿にするよ
うな形にしていればいいのか。これは非常に難しいんですけども。これは学校体
育じゃないものですから、その辺のくくりがあるんですけども、今、どっちみち教育委
員会でやっているものをこっちの、部局をまたいだ仕事になっちゃうんですけども、そ
ういうふうな意見交換はぜひしておいてもらいたいなというふうに思っています。

本当に子どもたちの数が減ったために、そもそもこのスポーツ少年団というのは、昭
和39年の東京オリンピック大会を契機としてできたものでありまして、非常に由緒ある
団体でございますので、これをなくすじゃなくて発展的に何とか広げていっていただき
たいなという思いがありますので、それも含めて運営の仕方とかを考えていただければ
と思っています。よろしく願いをいたします。

戻ります。

○杉田源太郎副分科会長 275ページの10款6項1目の市民スポーツ事業費、スポーツ教
室、たくさんいろんなスポーツ教室が開かれています。このうち幾つかに参加している
よという人もちょっと聞いているんだけど、この883万円の内訳をちょっと教えてく
ださい。

○河守邦人スポーツ課長 スポーツ教室は、スポーツ協会に委託して行っておりまして、

基本的には、この内訳としましては委託料になります。この委託料を基に、スポーツ協会のほうに通常の教室の運営を委託しております。

計画に当たっては、市とスポーツ教室、あるいは講師の皆さんと検討しながら、事業の内容、教室の内容を検討してまいりまして、実際の運営自体はスポーツ教室にお願いしているものになります。

以上です。

○**杉田源太郎副分科会長** 最初に、これ全部委託していると書いてあるもので、その委託というのは分かったんだけど、その委託先というのはスポーツ協会一つで、このスポーツ協会がいろんな教室のところに割り振りを多分していると思うんだけど、その割り振りについて、市が絡んでどうこうというのはないということですか。全部あとはお任せという。その割り振った、ここにたくさんいろんな教室が書いてあって、参加人数によってその講師の人数が違う、何コースになっているとか書いてあるけれど、3コースあれば3人の先生が、同じ先生がやるのか分からないけれど、いずれにしても、この教室には幾らぐらいかかるよ、この教室には幾らぐらいかかるよと、その割り振りだとかそういうものについては、市のほうでそういうことについての報告だとか、そういうことは代わりに受けているわけですか。

○**河守邦人スポーツ課長** 内訳の教室ごとの明細というのはございませんけれども、それぞれ講師の講師料等が中心となりますけれども、その細かな内訳というのは委託事業になりますので、スポーツ協会のほうに任せております。

以上です。

○**杉田源太郎副分科会長** お任せするのは分かるんだけど、この金額の算定基準だとか、そういうものというは何か示されているんですか。

○**河守邦人スポーツ課長** 当初予算要求の時点でスポーツ協会と検討しまして、先ほどの講師料以外も含めまして積算をしております。ちょっと今、手元に積算資料がないものですから、内訳の御説明はできませんけれども、そういった資料を基に次年度の予算を作成しております。

以上です。

○**杉田源太郎副分科会長** 了解です。

○**村松幸昌分科会長** いいですか。

ほかにありますか。

○**増井好典分科会員** 269ページの上から4段目、焼津市ボーイスカウト育成支援事業費なんですけども、こちらのほうが、補助金といいますかそんな感じですね。恐らく事業の計画、活動計画を出していただいた中で、そのうちの2分の1を補助するという形になっていると思います。それ以外に、この団体の運営費に関する補助も、一応この中に入っているという解釈でよろしいんですか。

○**増井 悟スマイルライフ推進課長** 補助金の中身について御説明を申し上げたほうが分かりやすいかなと思いますけれども、この補助金の中身、対象といたしましては、報償費であるとか消耗品費、燃料費といったものに加えまして、保険料であるとか、例えばどこかの会場を借りて活動するよといったときの使用料であるとか、そういったものも結構含んでおりますので、ボーイスカウトの方々いろんな活動をするに当たって、あ

る程度補助の対象となるようにということの配慮といえますか、ある程度させていただいた中で、補助金のほうは支出をさせていただいております。

以上です。

○増井好典分科会員 分かりました。事業全般という解釈で。青少年団体、以前は各地区で青年団とか、公民館が主催する青年学級、あと、今あるくろしおさんもそうです。あとスクエアダンスクラブとかBBS、そういった団体がいっぱいあったんですけども、今もう少なくなって、唯一、一番歴史があるボーイスカウト、ガールスカウト、この団体が残っているという状況なので、ある程度、言い方はあれですけども、保護してやるというか、応援をするという立場の中で、支援する金額とかそういったものも少し考えていただくということもお願いできればと思いますので、またよろしく申し上げます。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

ほかにありますか。それじゃ、よろしいですね。

では、ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

以上で、予算決算審査特別委員会総務文教分科会の生きがい・交流部所管部分の審査を終了いたします。

当局の皆さん、御苦労さまでした。

当局入れ替わり後、このまま続けますので。

休憩（13：31～13：36）

○村松幸昌分科会長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、認第12号中、教育部所管部分を議題といたします。

それでは、質疑、意見のある分科会員は御発言をお願いします。

○杉田源太郎副分科会長 261ページになりまして、10款1項3目外国人教師配置費という形で、英語指導助手配置事業費ということで5,541万円計上されています。英語教育が小学校で必須になったと思うんですけど、それからいろいろたっていると思うんですけど、この辺の費用かけながらやって、小学生の英語の習熟度というのは何を基準にして判断するのかちょっとよく分からないんですけど、この数年間、これが必須になった後、どんなふうに進化というか、小学生が英語をできるようになったのか、そういう何か環境の点が関係しているかという、評価しているかというのを教えてください。

○小林伸生教育センター所長 教育センター所長の小林です。質疑についてお答えいたします。

3、4年生が年間35時間、それから5、6年生が年間70時間、外国語もしくは外国語活動をしております。焼津市は全時間にALTを配置させていただいております。

その成果として、知識とかということではないんですが、今年度の学力・学習状況調査、4月に行った状況調査の中で、小学校については、「英語が好き」と答えた子どもたちが全国比に比べてプラス5.7ポイント焼津市は高くなっています。昨年度も同じ質問に対して、全国比プラス8.0%です。ということで、これまでの焼津市の取組が子どもたちに継続的に根づいている様子が見られると思います。中学についても、全国比に比べて、「英語が好き」という生徒が多いという結果が出ています。

- 杉田源太郎副分科会長 今、全国に比べてかなり、英語が好きだよというのが増えているというのは、やっぱりいいことだなと思うんだけど、ただ、英語が好き、自分らが小さいときに習った英語というのと、だんだん学校が、中学、高校となっていくと、何か受験のための英語みたいになっちゃって、今大切なのはいろんな会話だとかそういうものをしながら高めていくという、そういうところがやっぱり今求められているのかなと思うんだけど、外国人ALTの方って、当然英語でしゃべっているんで、会話というものを多分重視しているんじゃないかなと思うんだけど、そこを楽しいと思ってくれるというのは、そこを楽しいと思ってきている、そこを評価しているということでしょうか。
- 小林伸生教育センター所長 そのように学校では判断しております。小学校の担任でいますと、英語がしゃべれる者ばかりとは限らないので、ALTがいることによって、生の英語で子どもたちとのコミュニケーションが取れるということで、英語をふだん聞くことによって、英語をしゃべってみたい、楽しいと思う児童・生徒も多いかなと考えます。
- 杉田源太郎副分科会長 ありがとうございます。
- 村松幸昌分科会長 いいですか。ほかにありますか。
- 村田正春分科会員 261ページです。10款1項3目中学校教育指導費、中学生部活動助成費で、これ見ますと、部活動指導員の配置を行った（2名東益津中卓球部、東益津中サッカー部）、その下に、部活動外部指導者の配置を行った（全9中学校）とありますが、部活動指導員と部活動外部指導者の違いがよく分からないんですが、それをお願いします。
- 寺尾正幸学校教育課長 村田分科会員にお答えします。部活動指導員は、例えば部活動指導員のみで指導が行えたりであるとか、あと試合の引率とかもお願いできる方になります。
- 外部指導者については、そういうことはできずに、顧問と一緒に指導を助けていただくような形でお願いしている者になります。
- 以上です。
- 村田正春分科会員 そうすると、この東益津中卓球部とサッカー部というのは、元先生ということになるんですか。
- 寺尾正幸学校教育課長 昨年度お願いした2人の部活動指導員は、元教員の方になります。
- 村松幸昌分科会長 よろしいですか。もう一回聞きますか。
- 村田正春分科会員 じゃ、もう1個。すいません。じゃ、部活動指導者、全9中学校というのは、どこの中学校かな。全9中学校に配置されているという。どの部活動で。
- 寺尾正幸学校教育課長 外部指導者のほうは、全9中学校に配置されています。令和5年度は37人の外部指導者を委嘱しました。学校別の人数はよろしいですか。
- 村田正春分科会員 そこまではいいです。
- 寺尾正幸学校教育課長 以上です。
- 村松幸昌分科会長 よろしいですか。
- 村田正春分科会員 同じく261ページです。10款1項3目教育交流事業費です。モンゴ

ル国ウランバートル市チンゲルテイ区の児童・生徒との交流のため、学校へ贈る教材を選定、準備したとあって、その執行歩合というか、それがすごい低いというか、13.6%、この理由は何でしょうか。

○寺尾正幸学校教育課長 実は、モンゴルのチンゲルテイ区交流教材費と、もう一つ計画をしていたものとして、ホバートとの交流も考えておりました。ホバートのほうが交流する中学生の人選であるとか、あと実施日時、内容について、受入れ方との調整をうまく進めることができず、やむを得ず断念したところがありまして、執行率が低くなっております。

以上です。

○村田正春分科会員 ということは、ホバートのほうにも教材とかそういうものを贈るということを計画していたということですか。

○寺尾正幸学校教育課長 ホバートとは、中学生の実際の交流も予定をしておりました。

○村松幸昌分科会長 じゃ、教材を送ると人事交流するというのは別事業だけど、一緒に予算でやりますという、そういうくくりだよ。

○寺尾正幸学校教育課長 はい。

○村田正春分科会員 その人事交流ができなかった。

○増井太郎教育部長 モンゴルのほうはこれまでも交流を進めてきた中で、そういった教材を日本語に慣れ親しんでもらうというか、日本語をまた好きになってもらうということで教材を贈るということで、それは計画どおりに事業のほうを行えたんですけども、ホバートの交流というのが、これはやってきたということではなくて、今後進めていくという中で、まずはこういったことをやりたいですとかという、なかなかその調整が、うまく言ったら変ですけども、受け入れる側の予定もありますので、そこに時間を要してというような形で、今回はちょっとできなかったというような状況です。

事業としては全く別物で、モンゴルに関しては、計画どおり事業のほうは行われております。

以上です。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○村田正春分科会員 それはやっぱり一番は、コロナ禍だったということが一番大きな原因なんではないですか。それとは関係ないですか。

○増井太郎教育部長 コロナというよりは、ホバートに関しては、今後50周年ということで、ちょっと交流が途切れていたところもあるんですけど、またそのところを、去年、市長、また教育長が行かれて、またお話をされていく中で、今後どうしていきましようというようなところの中で、その人事交流まで一気にちょっと進められなかったと。ただ、中・高生とかそういった方々が交流しているというのは、また続いているかと思えますけど、この事業に関しては、ちょっとそこまで進められてきていなかったということが実情です。

以上です。

○村松幸昌分科会長 よろしいですか。

○村田正春分科会員 了解です。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっと戻りますけど、259ページ、10款1項3目学校教育指

導事務費で、学校図書館司書配置事業費というふうにあつて、これ説明いただいたときに、司書の人数だったけど、21名というふうに聞いていると思うんですけど、ここで21名って、中学校が9校で小学校が13校で22校、だけど、1校はというのは、東益津が抜けているということですか。

○寺尾正幸学校教育課長 はい。

○杉田源太郎副分科会長 これは、そちらにも私、電話で問い合わせたことがあるんですけど、大井川西小で今、司書さんいないですよね。

○寺尾正幸学校教育課長 南。

○杉田源太郎副分科会長 あっ、南ですね、ごめんなさい。南で司書さんはいないけど、それは、昨年度はいたということですか。

○寺尾正幸学校教育課長 昨年度は、全校というか21人配置していました。大井川南小についても、現在、配置できております。

○杉田源太郎副分科会長 あっ、できたの。よかった。

○村田正春分科会員 いいですか。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっと基本的なことで申し訳ないですけど、ここに学校図書館司書と書いてあるんだけど、司書さんにいろいろ話、何人かと交流があるんですけど、学校図書館司書じゃなくて学校司書ですよ、呼び方として。これをあえて学校図書館司書というふうにここに書いたのは、ほかの人たちにも分かるようにという、そういう意味で書いたのか、学校司書が正しいという表現なのに、それを使わなかったというのは、その理由は何でしょう。

○寺尾正幸学校教育課長 もしかしたら違っているかもしれませんが、事業名としてこういうふうに挙げられているということで、今後もし、事業名の訂正が必要になれば、その訂正というものも考えなくてはならないかなと、今お話を伺って思いました。

○杉田源太郎副分科会長 司書さんから、ちょっと私も最初、学校図書館司書というふうに言っていたら、それ違いますよって何回も怒られたので、事業費の名前と実際には違うんですよというのが分かっていたら、それはそれでいいんですけど。

それで、あとその学校司書さんの方は、自分がお付き合いさせていただいた、読み聞かせなんかでさせていただいている人たちなんか聞いた中では、ずっと長くやっている方が何人かいるんですけど、今までも入替えというか、もうお辞めになって、お辞めになった方もちょっと知っているんですけど、今まで更新というか、どのくらい交代されているんですか。

○寺尾正幸学校教育課長 どれぐらい更新されているかということは、ちょっと今、手元に資料がないので分かりませんが、任用の年数を見ますと、昨年度ちょうど1年になる方もいらっしゃる、一番長い方では15年という方もいらっしゃいますので、いろいろ入れ替わっているというふうには理解しております。

○杉田源太郎副分科会長 学校教育にとってみたら、学校図書館ってすごく大事なというふうに思っています。そこに司書さんがいるかいらないか。司書の時間の問題というのは、大井川が合併する前のときは6時間だったのが4時間になっちゃったということで、何人か居てもらいたいという要望はあるんですけど、この前、先ほど言った人が大井川南でしばらくいないときに、登録って結構たくさんされていて、すぐ交代の方ができ

るのかなと思ったら、できないんだけど、今、市のほうに登録されている方というのはどのぐらいいるんですか。

○寺尾正幸学校教育課長 すぐにできないというふうな状況ということのとおり、今、ちょうどぴったりの部分にしか登録されていないということになります。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○鈴木まゆみ分科会員 261ページの10款1項3目教科書改訂費18万352円なんですけども、予算額の23.7%の執行ということの理由と、この18万352円の内容をお願いします。

○寺尾正幸学校教育課長 内容につきましては、授業を行う教員が使用する教科用図書や指導書の購入費用となっております。教科書の改訂のある年とそうでない年がありまして、それに伴って、今回は18万352円の執行といたしております。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○杉田源太郎副分科会長 259ページの10款1項3目で学校教育指導事務費、学校運営協議会事業費の中で、全中学校区に学校運営協議会が設置された。その中で、私たちもこの委員会の中での大きな提言でもあるんですけど、コミュニティースクールを今、勉強している最中なんですけれど、その研修会が実施されたというふうに書いてあります。この研修会というのは、どんな研修会をやって、全地区ですかね、それは個別にやったのか合同でやったのか。

要は、自分たちもいろんなところでコミュニティースクールの勉強をしている中で、レベルというか段階的な問題かもしれないんだけど、今始めたばかりというところ、大井川はもう前から始まっているんだけど、指導はあまりないというようなことがあるもので。そこではどんな研修会をやられているのか、ちょっと教えてください。

○寺尾正幸学校教育課長 市では、教育委員会主催で年2回、令和5年度については6月と1月に研修会を開いております。また、県主催のコミュニティースクール連絡協議会への参加も呼びかけまして、ディレクターの方たちに参加していただいております。

方法としては、全てのコミュニティースクールの学校の先生、それからCSのディレクターさん、地域交流センターの所長さんにも集まっていただいて、それぞれの地区の課題でありますとか国、県の動向、そういうものを周知するとともに、それぞれの取組についても発表していただいて、特に前から進めていただいているところの具体的な実践例も教えていただきながら、それぞれの地区の活動が進むように検証を進めているところでもあります。

○杉田源太郎副分科会長 まだまだ大変なところだと思うんですけど、やっぱり今、こんなことを目標にしているよというのを伺いましたけれど、この学校運営協議会、このメンバーの方の選出というのはどういう基準で選出されているんですか。

○寺尾正幸学校教育課長 こちらは学校のほうで選出をしております。そのときに、地域のことをよく分かっている方でありまして、いわゆる学識経験者でありまして、そういうことを踏まえて、学校のことについて、もちろん保護者の代表の方とか、そういう方たちも入れながら、学校運営が共に進められるようなメンバーを選んで教育委員会のほうに報告していただき、教育委員会で委嘱しております。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 あんまり突っ込むあれはないんですけど、ディレクターの役

割というのは物すごく大きいなというのが、自分も勉強してきて感じてはいるんですけど、そのディレクターの思いなんかを、学校の先生なんかも多分一緒に出ていると思うんですけど、学校の先生なんかで物すごい熱い方、大井川中学校でお会いしたんだけど、こういう熱い人がいていいなと思ったんだけど、その同じ地域の委員の方がどうも冷めているなど。それはしようがないかなというところはあるんだけど、これはすごく、これからの人口減少社会の中で、地域の中で子どもたちを育てていくということを自分らの政策提言のテーマにもなって、自分たちも一生懸命勉強しているけれど、自分たちもどうやってその地域で、何か自分らができることないかなとは思っているんだけど、そこの、うまくいっていないと言っちゃいけないのかもしれないけど、まだ、熱いのと温度差がちょっとあり過ぎるかなというのがあるんだけど、そこを調整していくところに、やっぱりディレクターの力があると思うんだけど、このディレクターの方というのは、どこから来ている方ですか。

○寺尾正幸学校教育課長 ディレクターにつきましても、学校運営協議会の委員の中の一
人となっております。現在のメンバーを見ますと、割と元教員をやられていて、また、
地域でも様々な形で活躍されている方がその間に入ってまとめてくださっております。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○杉田源太郎副分科会長 了解です。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○原崎洋一分科会員 277ページの備考欄の下から3行目、公共施設保全計画実施プログ
ラム推進事業費（給食センター）とあるんですが、これ、詳細を見ていくと、49万
4,000円という部分が残額になっているんですが、この説明をお願いします。

○萩原雅頭学校給食課長 答えします。こちらにつきましては、入札年度の形でやって
いるものですから、それで残が49万4,000円残ったということになります。

○原崎洋一分科会員 やらなかったわけじゃなくて、安くなったと。

○萩原雅頭学校給食課長 はい、そうです。

○原崎洋一分科会員 分かりました。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○杉田源太郎副分科会長 261ページの10款1項3目で、不登校児等適応指導・就学支援
費……。

（「すみません、学校福祉部です」と呼ぶ者あり）

○村松幸昌分科会長 次です。

（「不登校とか生徒指導は学校福祉のほうで。ごめんなさい、分けるの大変
で」と呼ぶ者あり）

○杉田源太郎副分科会長 一緒になっちゃってる。ごっちゃになっちゃった。ごめんなさ
い。

○村松幸昌分科会長 だから、課で。

○杉田源太郎副分科会長 学校教育課になっているよ。

○村松幸昌分科会長 どこですか。もう一遍……。

（「不登校の中の外国につながる」と呼ぶ者あり）

○杉田源太郎副分科会長 外国につながる。

(「外国につながる子はそうですね」と呼ぶ者あり)

○杉田源太郎副分科会長 その前のところで不登校等って書いてあるもので、それを読んだだけです。

(「それじゃ、外国につながる」と呼ぶ者あり)

○杉田源太郎副分科会長 そうですよ。

(「大丈夫です、そこは」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌分科会長 いいですか。外国につながる児童生徒等教育支援事業費1,972万963円について。

○杉田源太郎副分科会長 そうです。すいません。最後まで読めばよかった。この支援員というのはどんなスキルを持った方たちなんですか。

○小林伸生教育センター所長 お答えいたします。まず、子どものほうですけれども、年々、外国につながる児童・生徒の数は増えております。それに対して、支援員、昨年度、令和5年度では全体で61人登録していただいております。その61人の内訳ですけれども、日本語を教えることができる日本語教師資格者が26人です。バイリンガル、通訳さんのような形になりますが、ポルトガル語、ビサヤ語、タガログ語、英語、スペイン語、中国語等のバイリンガルで支援ができる支援員が16人です。JSL学習支援員といひまして、日本語の指導を初期学習から教科学習までカバーする文科省開発のカリキュラムということで、学習支援員という方がいますが、その方が19人となっております。

以上でございます。

○杉田源太郎副分科会長 スキルに、この差がどうのこうのということを言いたいんじゃないんですけど、この人たちに対する報酬というんですか、それはどんなことをやっているんですか。

○小林伸生教育センター所長 謝礼扱いで、単価1,300円ということでやっていただいております。

○杉田源太郎副分科会長 単価というのは。時間ですか。

○小林伸生教育センター所長 時間。

すいません、付け加えて。昨年度の話でありますから、今年度は100円上げていただいております。

(「じゃ、1,400円」と呼ぶ者あり)

○小林伸生教育センター所長 1,400円です、今年度は。

○杉田源太郎副分科会長 最低基準を上回っているのでもいいですけども。

逆に、今度、対象となる児童数はどのくらいなんですか。

○小林伸生教育センター所長 令和5年度が小学校249人、中学校88人の合計337人です。ちなみに、前年度の令和4年度は合計が303人でしたので、昨年度も30人ほど増えております。

○村松幸昌分科会長 ほかにありますか。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっと今の追加で。

○村松幸昌分科会長 関連。どうぞ。

○杉田源太郎副分科会長 人口増えているということだもんで、そうすると、また今年度も、また今、増え続けているんじゃないかなと思うんだけど、今かなりいい方向で動

いていると思うんだけど、それが今年度に向けて、何かずっと対策をさらに、こんな対策を進めているよというのがありますか。

○**小林伸生教育センター所長** 外国につながる児童・生徒の337人の内訳なんですけれども、直接、外国から入ってきた子どもたちもいて、その子たちに対して、教育センターでは未来教室と言っておりますが、学校に就学する前に、母語だったり、それから日本の文化だったり、そういうものを大井川庁舎である程度学んでから、本人も保護者も学校も、ある程度子どもたちがなっところで就学するというようなことに取り組んでおります。

それから、保護者へのガイダンス等も何人かまとめて一緒にやるなどの方向で、保護者の心配が少しでも軽減できるような取組をしております。

○**杉田源太郎副分科会長** 市からの援助を受けているかどうかちょっと分からないですけど、大井川の地域で、民間の人たちだと思うんだけど、元学校の先生だった方もそこにいるんだけど、大井川の港のほうの近くで、かなり多いんですね。そのところの方たちを何か集めてやっている団体があるんだけど、そういうところと市との関わりというのは何かあるんですか。

○**小林伸生教育センター所長** 少し話がそれてしまうかもしれませんが、市役所でいいますと、多文化共生課等々も教育センターと連絡を取り合いながら、お互いの催物というか、共催の進路ガイダンス等も行いながら、市も。

○**杉田源太郎副分科会長** 連携はしているよということで。

○**小林伸生教育センター所長** はい。

○**村松幸昌分科会長** ほか、どうでしょう。

○**杉田源太郎副分科会長** もう1個聞いていいですか。

○**村松幸昌分科会長** もう1個ね。

○**杉田源太郎副分科会長** 261ページで10款1項3目の中で、学校情報化推進費という形でICT環境整備、電子黒板ですよ。電子黒板が、自分たちも視察で小学校、あれは中学校だったかな、行ったよな。そのときというのは、電子黒板をすごく使っている先生と、何か使い慣れないというか、うまく使えないと感じる、ちょっと見学させていただいたときに、大変だなんて思いながら、もう何年かたっているわけなんですけれど、これ金額的にはやっぱりかなりあるわけなんですけれど、ほとんどがリース料とかそういう形で、説明的にはそう読めるんですけど、ここの費用対効果と言ったらおかしいけれど、これはかなり使うことによって、授業というものの内容が変わってきたのか、それについて、今度、自分たちも見学させてもらったときに、生徒もそれを使いながらいろいろやっていたということで、その使い方とか、教育の中で、こういうところがよくなった、ああいうところがよくなった、やっぱりこれがあってよかったなという、その費用対効果ということで、この金額との、この金額を決めたことはちょっとおかしいかなと思うけれど、どのぐらい、さっきの英語のあれじゃないけれど、これを使うことによって、教育的にこうだというふうに評価できることはありますか。

○**寺尾正幸学校教育課長** 先ほど、全国学力・学習状況調査ということでお話がありましたけども、このICTの活用についても質問がありまして、子ども自身が、ほぼ毎日使っているよと答えている割合ですが、焼津市は全国に比べて約2倍、小学校、中学校と

よりとか、しずはまっ子マグロ解体ショーですとか、様々な工夫を凝らしていただいて、やってはいただいているんですけども、子ども会自体が、今、加入率が減っていたりですとか、あと、役員さんですとか、会員さんもそうなんですけども、ちょっと負担感が最近高まってきているという背景がございまして、そういったことで、こういう執行にもちょっと出てきてしまっているのかなというふうに考えております。

以上です。

○**村田正春分科会員** いろいろな社会の変化でこういう少子化ということもありますし、子ども会の加入というのがどんどん減っていて。昔、いろんな活動を、球技大会とかやっていたと思うんですが、これは子ども会がもしかしたらなくなるということも考えられますか、将来って。20年、30年ぐらい先。

○**青島庸行家庭支援課長** そうですね、市子連がありまして、その下部に子ども会組織があるんですけども、市の立場といたしましては、子ども会という歴史のある、地域の方が盛り上げてくださっている任意の団体ではあるので、指導的な立場とか、そういったことではないんですが、子ども会活動自体は、多様な学年の子が、今、交流の機会が減っている中で、1年から6年までが親睦を深めたりとか、地域で見守り合ったりとか、集団で登校するとか、あと、地域の保護者も関わるものですから、子ども同士の見守りの目とか、保護者からの見守りの目とか、そういうことを考えると非常に重要であるというふうには考えているところです。

なので、この補助金もそうなんですけども、役員さんからの声で、市子連で1回取りまとめて補助金を申請してもらおうというところを、市子連でまとめるのが手間なものですから、校区ごとに申請してくださいとか、そういうことで、子ども会の役員さんと打合せをしながら、負担が減るようにちょっとやっているところになります。

すぐに役員さんたちも、市子連をじゃあなくそうとか、そういうことはおっしゃってはいないんですけども、ちょっと加入率が下がっているということもありまして、ちょっと心配なところではあります。

ただ、すぐになくなるということはないと思います。

○**村田正春分科会員** 今ね、ちょっとお話の中に出たんですが、旗振り当番、登校班というのが集団登校、それは大体子ども会単位でどの学校も。小学校によってそれはやっていないところもあるかもしれないんですけど、大体子ども会単位で登校班、集団登校ってやっていると思うんですけども、その旗振りを子ども会に入っていないからやらなくてもいいんだとか、でも、子ども会に入っていないけど、登校班は一緒に仲よくやる、その辺が非常に難しいなと、学校でもいろいろそういうふうに悩んでいるところなんですけど。やっぱり子どものことを考えると、子ども会に入っていないから、あなたは別に来なさいよなんて言えないんですけど、子ども会に入っている親御さんの立場になると、旗振りに出ないのについていう、親の都合で子どもがそういうのけ者にされちゃうという、そういうのが起きてしまうんじゃないかなというのをすごく心配しているんですけど、その辺の、難しいなと思うんですけど。特にまた、外国籍の子どもが増えているということもありまして、その辺の、そういう家庭への説明とか。できるだけ子ども会に入るというか。

登校、それは一緒にみんなで行きましょうよという、協力しようねということをや

く伝えられるのかどうか、その辺、市のほうで関わることはできないのかなというのがちょっと思うところなんですけど、その辺どうなのでしょうね。

○**青島庸行家庭支援課長** それこそ令和5年度には子ども会の役員さんたちと3回ほど教育委員会の、私だけではなく、子ども支援課長ですとか学校教育課長とかも入れたりして会合を持って、一応課題なんかを話し合ったりしているところです。そういった中で今できることをやらせてもらっていて、例えばなんですけど、子どもを守る家というのがあるんですけども、地域で協力してくれるお宅に防犯協会からもらえる子どもを守る家という看板を、市子連、子ども会が取りまとめを行っていたんですけども、そういったことが大変という話も出ていたりしたものですから、そういったことは家庭支援課のほうで取りまとめを行うというふうに今、調整をさせていただいています。

加入とか加入しないとかというところになると、なかなか入れないところはあるんですけど、やれる範囲のことは少しやらせてもらおうかなと思っております。なので、学区によっては、外国につながる児童・生徒の転入が多いというところには、例えば母国語というか外国語のちょっと案内みたいなのを、もし手伝ってとか、そういう要望があれば協力はしていきたいなというふうには思っているところです。やれる範囲で協力をさせていただいているという状況になります。

以上です。

○**村松幸昌分科会長** いいですか。

○**村田正春分科会員** はい。

○**村松幸昌分科会長** ほかにありますか。

○**鈴木まゆみ分科会員** 関連していいですか。今の子ども会の市子連というのが出てきたんですけども、たしか10年くらい前だか、市子連の役員の方が着服したというのがたしか……。

(「何をした」と呼ぶ者あり)

○**鈴木まゆみ分科会員** 市子連の方がお金を着服してというのがたしかあったと思って、それからすごく信用をなくして、もう子ども会なんてという流れがたしかあった気がするんです。それも影響しているんですかね。やっぱりそうなんですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○**鈴木まゆみ分科会員** 市子連という位置、団体、子ども会連合会ということなんですかね、あくまでも任意団体という形なので、市が特に関与するということはできないということなんですね。分かりました。ありがとうございます。

○**村松幸昌分科会長** ほかにありますか。

○**鈴木まゆみ分科会員** いいですか、別の質疑で。10款1項3目、ページが261ページです。いじめ防止等対策事業費491万4,454円なんですけれども、いじめ防止等に関する機関及び団体相互の連絡調整を行いという説明があるんですけども、関係する機関及び団体というところをちょっと、内容を教えていただければと思います。

○**荒井 健子ども支援課長** いじめ防止等の事業につきましては、主に使っているものがスクールソーシャルワーカーの賃金と学校ネットパトロールの賃金になります。関係者といえますか、いじめネットパトロールで、ネットのいろいろ問題点を探してもらっていますが、啓発動画も作ってもらっているんです。その啓発動画を作る際に、警察の方で

すとか、PTAの保護者代表の方ですとか、学校の生徒指導の担当の先生方ですとか、そういった方に来ていただいて、こういったネット向けの啓発動画を作ると、より効果的なんじゃないかみたいな話合いは行っております。

以上です。

○鈴木まゆみ分科会員 ありがとうございます。

○村松幸昌分科会長 いいですか。

○杉田源太郎副分科会長 199ページで3款3項1目、私、説明がよく分からなかったんですけど、放課後児童クラブ推進事業費なんですけれど、この中で、補助分と単独分というふうにあるんですけれど、ちょっとその違いについて説明いただけますか。

○青島庸行家庭支援課長 それこそ昨年度までは1本で記載があったと思います。令和5年度の決算分につきましては、補助分と単独分と分けて記載をさせていただいているので、そのちょっと変更があったということで。ただ、これ、合算したものが昨年度の1本のものになるという感じになっております。

補助分につきましては、2億4,734万2,286円なんですけど、こちらは国県交付金の補助金の対象となる支出になりまして、各クラブへの委託料が主な内容となっております。

あと、単独分のほう、1,832万5,319円につきましては、市の単独支出のものになりまして、例えば、児童扶養手当の受給世帯ですとか、生活保護受給世帯ですとか、複数児童利用世帯における保護者負担金の軽減の補填分等でありましたり、夏季限定放課後児童クラブの開設の委託料などが内容となっております。

○杉田源太郎副分科会長 この金額なんですけれど、今朝、資料配付、議員の机の上に配付された各児童クラブの名前と支援員数と補助員数、児童数というのが書いてある資料を今朝頂きました。この人たちの給料じゃないや……。

○青島庸行家庭支援課長 処遇改善。

○杉田源太郎副分科会長 これはどういう基準があるんですか。

○青島庸行家庭支援課長 放課後児童クラブの支援員、補助員さんたちへの処遇改善事業の關係の御質疑ですけども、内容的には補助分の中に入っております、国の交付金のメニューの中にその部分が入っております。

令和5年度の実績になりますけども、令和5年の5月1日現在で、そちらの表にございます、支援員が165人、補助員も含めて165人いらっしゃいます。賃金改善が実際行われた方というのは127人でした。実績額については、その補助分の金額のうち877万8,000円でした。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっとどのぐらいの改善がされたのか具体的によく分からないんですけど、この処遇改善の問題は前から言われていたので、これが実施されたよということですよ。

ちょっと私、この決算の問題と直接関係しないのかな、分からないけれど、ここの表を見ると、1つの児童クラブの中に支援員の方が1人というところが結構ありますよね。これ、前にも深田議員の一般質問の中でもあったかもしれないんですけど、支援員が1人というのは、もしその方が何か病気だとか何かで休んだとか、そういうふうになったときに、補助員の方だけで見るとということになると思うんですけど、そういうのという

のはいいのかなと。

○青島庸行家庭支援課長 支援員の数が1人というところは、基本的には1つのクラブ、支援単位につき、最低でも支援員が1人いて、補助員1人、合計2人で見ましようよという指示なんですけども、1人だと、その方がちょっと都合が悪くて欠席されたときにどうしているかという御質疑だと思うんですけど、クラブですと、法人が何クラブも持っていたりしまして、そこで支援員を応援してもらいながら運営をしていただいております。

以上になります。

○杉田源太郎副分科会長 もし、これはほかのニュースなんかでちょっと見たんだけど、補助員あるいは支援員の数がちょっと足りないよといったときに、タイミーっていうんですかね、御存じですか、タイミー。何か隙間バイトというか、短時間でもやれるよという、そういうので何かこの学童クラブの、児童クラブのアルバイトみたいな形で短時間だけ。急にいなくなったので、この日のこの時間、何時間だけお願いしますって、そういうネットで何かやると、ぱっとそこだけ手を挙げて、その時間だけやるというのを。そういうときって、自分がそういう資格を持っているか持っていないか関係なく、そういうのでもやっていたということがニュースになったときに、えっと思ったんだけど、焼津市でそういうことというのはありますか。

○青島庸行家庭支援課長 私もその報道は見させていただいたんですけども、焼津のクラブの中でそういった話はちょっと聞いておりません。

○杉田源太郎副分科会長 ちょっとそれに関係するかもしれないけど、補助員の方がいるということはすごく大切なことだと思うんだけど、補助員の方の資格というんですかね、どこかの研修か何かに通ってというのがあれに書いてあったと思うんだけど、補助員の方というのは、そういう資格のあるなしは関係ないということですか。

○青島庸行家庭支援課長 補助員の方の資格要件みたいな感じですかね。

○杉田源太郎副分科会長 そうですね。

○青島庸行家庭支援課長 補助員につきましては、特に資格というか、そういった指定はないです。御質疑からそれるかもですけども、補助員の方が経験を5年積んで、県の指定する研修を受けると支援員の資格を得られるということになっておりますので、できれば補助員の方に長く勤めていただいて、県の研修を受けていただいて支援員になっていただきたいなというふうにちょっと考えているところです。

○杉田源太郎副分科会長 それを聞いて、5年間勤めて資格を取った方が何人かいると聞いたことがあるんですよ。今、補助員の方はかなり長くやっている方が多いということではよろしいですか。

○青島庸行家庭支援課長 実際、そういった聞き取り調査みたいなものはちょっとしていないんですけども、担当課としては長く勤めていただきたいなと考えております。それこそ、処遇改善事業なんかも、27クラブあるうちの23クラブで、シルバー人材センターは雇用形態がちょっと特殊で対象にならないんですけど、小規模な家族経営みたいになっていらっしゃるクラブですと、申込みがないような状況ではあるんですけども、なるべくそういった処遇改善につながるようなことにつきましては、積極的にやらせていただきたいなと思っています。

○杉田源太郎副分科会長 できるだけそういう、補助員の方が、ここで資格取ったよというようなものの、もしデータとして各クラブのほうから連絡があって、補助員の人たちも資格を取っているよというのが、そういうのを確認しておいていただきたいなと思います。

それと、夏休みにやってくれる児童クラブありますよね。この中で夏休みをやって…

(「2つですか」と呼ぶ者あり)

○杉田源太郎副分科会長 2つというのはどこになるの、これ。分かりますか。夏休みをやってくれているクラブというのは。

○青島庸行家庭支援課長 夏季限定放課後児童クラブですけれども、市内の2か所、旧ふれあいギャラリーのところと、あと大井川地域で1か所ずつやらせていただいております。予算の枠組みでは単独分という中に委託料が入っております。

○杉田源太郎副分科会長 大井川と、ふれあいギャラリーって。

○青島庸行家庭支援課長 旧ふれあいギャラリーです。アトレ庁舎の。

○杉田源太郎副分科会長 大井川は。

○青島庸行家庭支援課長 大井川は、大井川南のところでもちょっと拡充していただいてやらせてもらっています。

ちなみに、利用実績が令和5年度ですと、ふれあいギャラリーの焼津地区の利用が63名で、おひさまクラブ、大井川南でやらせていただいているのが、利用が8名ということになっております。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 その夏休みをやっていただいたこの2クラブというのは、今、上に書いてある、表に書いてある児童クラブの中のどこかのクラブがやっているということでもいいんですか。

○青島庸行家庭支援課長 そのリストには出てきてはいないと思うんですけども、支援の要員は通常の運営と同じ条件でやらせていただいております。

以上です。

○村松幸昌分科会長 ほかに何か。いいですか、そのまま、じゃあ。

○杉田源太郎副分科会長 261ページの10款1項3目で、不登校適応指導・就学支援費の不登校児童適応指導費というんですか、2,390万円とあります。これが去年に比べて122.1%になっているんですけど、この増えた理由というのは何でしょうか。

○荒井 健子ども支援課長 不登校児童適応指導費につきましては、チャレンジ教室、焼津チャレンジ、大井川チャレンジの賃金、それから、そこにいるスクールカウンセラーの賃金になっています。その下の就学支援事業費につきましては、巡回相談員といいまして、各学校の特別な支援が必要なお子さんの様子を検査等していただきまして、その検査結果を学校のほうにフィードバックしていくというようなことをしていただいているほうになります。

増えているのが、大井川チャレンジの、今現在、3人、3人指導員がおりますが、その指導員が令和4年度に比べて1名増えている分の増加だと。

(「2から3」と呼ぶ者あり)

○荒井 健子ども支援課長 本当は今、3人、3人になっているのが、以前、大井川が2人だったところを3人にしたので。

○杉田源太郎副分科会長 あれ、2人なの。この前見に行ったとき……。

（「令和4年度が」と呼ぶ者あり）

（「そうです」と呼ぶ者あり）

（「令和4年度が」と呼ぶ者あり）

（「令和5年度で3」と呼ぶ者あり）

○荒井 健子ども支援課長 令和5年度は3人おりました。

○杉田源太郎副分科会長 そういうことですか。2人から3人になったので増えたということですね。

○荒井 健子ども支援課長 はい。

○杉田源太郎副分科会長 今、10款1項3目のその下までちょっと答えてもらっちゃったもので、あれなんだけど、今、不登校が増えていますよね。増えているときに今までも大変だなと思って、相談をするときに、ちゃんと窓口ありますよと言ってもなかなか相談できない、自分らもあちこちに視察行かせてもらったときに、そういうのが結構大変だということで、その相談を埼玉県……。

（「あれはさいたま市」と呼ぶ者あり）

○杉田源太郎副分科会長 子供たちがタブレットを1個1個持っていて、そのタブレットを使って、不登校の子がうちにいて、それを親が使って、ここでいえば福祉課のほうと連絡が取れて、顔が見えないような状況でもネットで相談ができるというようなことをちょっと勉強してきたんですけれど、なかなか相談先があるよということを、ちゃんと市としては相談先をつくっていますよと言うけれど、じゃ、あるから行けるかということ、なかなか行けないというのもやっぱり実態だということを聞いてきました。

そういうことからすると、今後、そういう案内だとかそういうものが、こうやれば一々来なくてもできますよ、顔を見せなくてもできますよというのを、そういうことを何か考えて御連絡する。今まで相談窓口だとかそういうもので、こんな窓口じゃなくてもちゃんとできているよという例はあったのかどうか。

○荒井 健子ども支援課長 ありがとうございます。不登校のお子さんたちが相談していただいて、私たちのまさに学校福祉部がそういった役割を担わせてもらっているわけですが、今御指摘のように、なかなか相談しにくいお宅があるんじゃないかということにつきましては、学校のほうで不登校のおさんがどういった関係機関とつながっているかというのを調べていただいています、なかなか国のほうですと40%近くがつながっている子がいないというような検査結果がこの前も報道等でおりましたが、焼津市ではそういった関係機関とつながっていないおさんをゼロにしていこうという目標を立てまして、向こうから相談しにくかったら、学校がどこの機関ともつながっていないお宅があったら、こういう相談機関があるよということを紹介していただきましたり、例えばスクールソーシャルワーカーを通じて、どういうふうにお宅にアプローチしたらいいかなんかということを考えたり、御家庭だけからの発信を待っているだけではなく、学校からもそういったお宅に対してアプローチしていくような手段を考えて始めているところです。

- 杉田源太郎副分科会長 今お答えいただいたカウンセリングなんかを、ソーシャル、何だ……。
- 荒井 健子ども支援課長 スクールソーシャルワーカー。
- 杉田源太郎副分科会長 うん。そっちの方というのは、今、市内で何人ぐらい、どうい
う地域に配置されているんですか。
- 荒井 健子ども支援課長 スクールソーシャルワーカーは、社会福祉士等で、困ってい
る御家庭を福祉関係のサービスにつなげたり、相談に乗っていただいたりしているわけ
ですけれども、県から3人、焼津市単独で3人スクールソーシャルワーカーを雇用して
おりまして、合計6人おります。毎週とはいきませんが、全ての小・中学校に行くよう
にしております。
- 杉田源太郎副分科会長 そのスクールソーシャルワーカーのほうに今対応していただ
いている、そういう児童・生徒の数というのはどのくらいいらっしゃるのでしょうか。
- 荒井 健子ども支援課長 すいません、ちょっと今、持ち合わせがなく、正式な件数は
把握していないんですけれども、本年度から全校に配置しているところで、昨年度より
も利用が広がってきているんじゃないかなと思っていますが、今後、ちょっと件数等確
認していきたいと思っています。
- 杉田源太郎副分科会長 今、全校に配置と言われたのは、スクールソーシャルワーカー。
- 荒井 健子ども支援課長 はい。スクールソーシャルワーカー。
- 杉田源太郎副分科会長 ワーカーは全校に配置されるんですか。
- 荒井 健子ども支援課長 はい。
- 杉田源太郎副分科会長 そういう方向で改善されているよということですね。分かりま
した。安心しました。
- 荒井 健子ども支援課長 本年度から全校になっております。
- 杉田源太郎副分科会長 本年度から。分かりました。ありがとうございます。
- 村松幸昌分科会長 市長が何か言っていたよね、その話は。
ほかにありますか。
- 杉田源太郎副分科会長 ちょっと別で。同じ10款1項3目、先ほどのところと同じなん
ですけれど、就学支援事業費、同じだと思うんですけれど、特別支援教育のコーディネ
ーターというんですか、その役割というのはどんなことなんでしょうか。
- 荒井 健子ども支援課長 この就学支援事業費で上げているのは、巡回相談員という相
談員の賃金でございまして、公認心理師等の資格を持った者が、朝、お子さんの学校で
の様子を見て、その後心理検査を行いまして、午後、保護者にその結果をフィードバッ
クしまして、その後さらに学校の職員に、この子はこういう特性があるので、こうい
うふうに接すると、よりこの子にとっていい支援ができるよというようなことを1日かけ
て支援していただく、そういったことをやっていたらいいんですが、なかなか大変
人気でという言い方が正しいか分かりませんが、要望が多く、非常に学校からも数多く
の要望が入っているところです。
- 杉田源太郎副分科会長 特別支援教室の対象の児童数というのが増えているというのを
ちょっと聞いて、ここにも説明があったと思うんですけれど、その中でグレーゾーンと
いうか、本当にこっちで指導しちやっついていいのかという、そういうのがちょっと差別的

なことになっていたら、やっぱりそういうのもまずいなとは思っただけけれど、同じ普通の学級の中に、自分たちのときはそうだったんだけど、前はそういう子どもはなかったけど、前はずっと、いろんな障害がある子も同じクラスの中にいるようなことが多かったと思うんですけど、そういうふうにしていったほうがいいよというようなお子さんなんかは、そっちのほうに移すということなんかはあるんですか。

○荒井 健子ども支援課長 就学支援委員会というものがございまして、医師を委員長にしまして、まず、各学校から、この子は通常の学級にいるんだけど、来年特別支援学級の知的学級、例えば情緒学級に移ったほうがいいかなというふうに学校や保護者が考えているお子さんを挙げていただきます。そういったお子さんを就学支援委員会に挙げていただいて、そうすると就学支援委員、各学校の教員ですけれども、その就学支援委員が、その子の学校での授業の様子を見に行きます。その後、保護者と面談して保護者の意向を聞きます。その後、就学支援委員会を開きまして、専門家等の意見を聞きながら、この子は来年度は通常の学級で学んだほうがいいであるとか、来年度は特別支援学級の知的学級に行ったほうがいいのではないかなというふうな判断を下します。そこで初めて、知的学級なら知的学級という判断が下るわけですが、その後さらに、最終的に保護者のところでどうしますかと、知的学級行っていいという判定結果が出ましたけれども、行きますか、行きませんかという判断を保護者から聞き、最終的に来年度の進路、就学先が決まっていくというふうな流れになっております。

以上です。

○杉田源太郎副分科会長 その下の、同じ10款1項3目なんですけれども、心の教室相談事業費、心の相談室というんですか、その関係なんですけれども、前年度、令和3年度に比べて少し増額をしているんですけれども、その理由は何でしょうか。

○荒井 健子ども支援課長 令和4年度から令和5年度は、多分時間は変わっていないので、単純に同じ方が勤めていただいて、少し賃金が上がったりですとか、そういった部分で増えているんだと思います。時間的には、研究指定校4校が6時間、その他の学校は4時間という勤務で働いていただいております。

○杉田源太郎副分科会長 心の教室相談員というのは大切なことだなというふうに思うんですけど、教室に行けないんだったら保健室でもいいですよ、図書室でもいいですよというのはちょっと聞いてはいるんですけど、そういうところに居たときに、逆にその子が占有しちゃうと言うとおかしいかもしれないけれど、そこにいと、ほかの子が相談に来れなくなっちゃうというような、そういうことに対してはどんな対応をされますか。

○荒井 健子ども支援課長 まさに今、副分科会長がおっしゃられたように、以前は相談が主だったので、そういったことがございましたが、今、国のほうでも校内教育支援センターという名前で、学校には来られるんだけど、教室には入りにくいというお子さんの支援をしていこうというふうになってございまして、今は狭い相談室みたいなどころではなく、普通の空いた教室一部屋みたいなどころを使いまして、1人ではなく何人かの、学校には来れるんだけど、教室には入りにくいお子さんたちを、例えばほかの子に見られたくなければパーティション等を置いて、ちょっと簡単な目隠しをして支援をしたりですとか、その場で少しエネルギーを蓄えて、行く気になったら教室に戻ってい

くというふうな役割のほうが主になっております。

○杉田源太郎副分科会長 今は人数が少ないもので、教室が空いているわけね。

（「全学校ある？」と呼ぶ者あり）

（「全部はないね」と呼ぶ者あり）

（「ないでしょ」と呼ぶ者あり）

○荒井 健子ども支援課長 ちょっと部屋が、意外と教室は空いていないものですから、ない学校もございます。

○杉田源太郎副分科会長 大井川の小・中学校に行くと、空いている教室があるなど思ったもので。中学校じゃないですね。

○荒井 健子ども支援課長 特別支援学級等が増加しておりまして、なかなか教室が空いているところばかりでもないところがございます。

○杉田源太郎副分科会長 分かりました。いいです。

○村松幸昌分科会長 いいですかね。

それでは、ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

以上で、予算決算審査特別委員会総務文教分科会の学校福祉部所管部分の審査を終了いたします。

当局の皆さん、御苦労さまでした。

それでは、これで当分科会の議案の審査は全て終了いたしました。

これもちまして、総務文教分科会を閉会いたします。皆様、大変御苦労さまでした。

閉会（15：01）